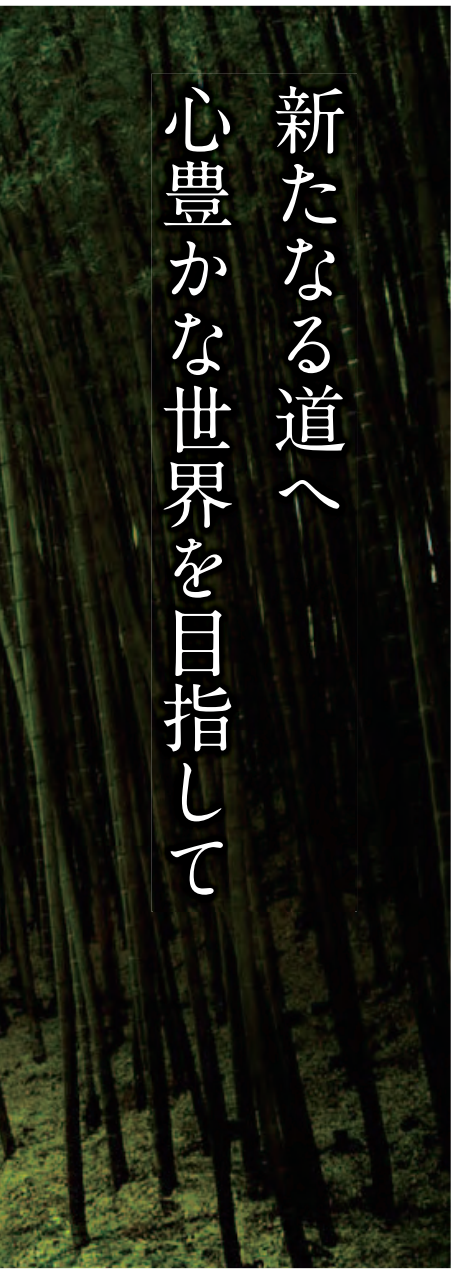
道 みち

公益財団法人 仏教伝道協会

No.07
2018

BDK Newsletter



新たなる道へ
心豊かな世界を目指して

公益財団法人　仏教伝道協会
会長　木村 清孝

道 みち

07

CONTENTS

02 新組織体制について

03 公益財団法人 仏教伝道協会 平成29（2017）年度の主な活動

1. 出版事業
- ●『とってもやさしい　はじめての仏教』『GUIDE TO BUDDHISM IN JAPAN』電子版公開
  - ＊『around TOKYO TEMPLE MAP』発行
- ●「全国ホテルマネジメントセミナー」開催
- ●『仏教聖典』頒布の今　平成29（2017）年度 頒布状況等
- ●シリーズインタビュー　『仏教聖典』を訪ねて
  - ＊創業1300年を迎えた老舗旅館でも活用される『仏教聖典』（石川県小松市）
- ●仏教聖典贈呈式参列と仏跡参拝の旅（ミャンマー）
- ●第2回　「こころの絵本大賞」　受賞作品決定
- ●『ブッダがせんせい』英語版刊行
- ●第4回「一日一訓カレンダーフォトコンテスト」開催
  - ＊写真展「第3回一日一訓カレンダーフォトコンテスト」（於 築地本願寺・平等院）
- ●BDK「英訳大蔵経」事業報告

2. 助成・表彰事業
- ●奨学金事業報告
  - ＊平成29（2017）年度「外国人留学生奨学金」受給者紹介
  - ＊平成29（2017）年度「日本人留学生奨学金」受給者紹介
- ●第51回「仏教伝道文化賞」受賞者紹介
- ●平成29（2017）年度「助成金事業」報告

3. 啓蒙活動・支援事業・仏教講座の開催
- ●第47回「実践布教研究会」開催（於 浄土真宗本願寺派本願寺他）
- ●「特別坐禅会」開催（於 曹洞宗大本山總持寺）
- ●「知っておきたい 禅と食」開催（於 曹洞宗宗務庁研修道場）
- ●第18回「仏教音楽祭」開催（於 紀尾井ホール）
- ●各種定例講座のご案内
  - ＊経営に活かす会・生活に活かす会・坐禅会・三田落語会　開催報告
  - ＊仏教ヨガ講座：スピンオフ企画「仏教×ヨガをはじめよう」開催（於 仏教伝道センター）
  - ＊「東京修行体験」開催（於　仏教伝道センター）
- ●仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」開催（於 仏教伝道センター）
- ●仏教を初歩英語で学ぶ会
  - ＊2級、3級認定試験実施：合格者の声紹介（於 仏教伝道センター）
- ●平成29（2017）年度 BDKシンポジム開催（於 仏教伝道センター）
- ●沼田智秀前会長一周忌法要厳修（於 築地本願寺）
- ●ちょっとひと休み 現代人のための「月1精進料理生活」のすすめ
  - ＊家庭で簡単！　精進スイーツレシピ（浄土真宗本願寺派光明寺　木原祐健師）

40 海外協力機関のご紹介
- ●海外協力機関のご紹介
- ●「BDKグローバル会議」開催報告
- ●米国仏教伝道協会
- ●ハワイ仏教伝道協会
- ●メキシコ仏教伝道協会・メキシコ恵光寺
- ●アジア仏教伝道協会
- ●ヨーロッパ仏教伝道協会・「恵光」日本文化センター

48 “ささえあって”　「円満（えんまん）」

公益財団法人 仏教伝道協会
BUKKYO DENDO KYOKAI

BDKニュースレター　No.7　2018-4,500　　平成30（2018）年6月1日発行（毎年1回発行）

発行　公益財団法人仏教伝道協会
〒108-0014　東京都港区芝4-3-14
電話：03-3455-5851㈹
FAX：03-3798-2758

編集・撮影　江口　郁（公益財団法人仏教伝道協会）
印　　刷　株式会社アーク／デザイン 田所淳一

平素より当協会の事業にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

平成29（２０１７）年2月に沼田智秀前会長が往生され、はからずも会長職という重責を担うこととなりました。

前会長が当協会の発願者沼田恵範師の願いを継承し、歩まれてきた一筋の道は、仏教の伝道を通じて人類の幸福と世界の平和に貢献するというものでした。そしてそのために、『仏教聖典』の頒布を主軸として、仏教を世界に伝えるさまざまな活動を実施してまいりました。

しかしながら、少子高齢化や都市部への人口集中と地方の過疎化など、時代の変化は激しく、当協会の理想を実現することに対して、新たな課題も生じてきています。

私どもは、この現状をしっかりと踏まえ、「世界の平和は人間の完成によってのみ得られる」との信念のもと、これまでの伝道のあり方を振り返りつつ、今求められているものは何であるのか、この現状をしっかりと捉え、既設の諸活動に加え、時代の変化に適応した新たな方向性も模索してまいりたいと考えております。

今後も各仏教教団、団体をはじめ、有縁の皆さまのご支援とご教導を賜り、また、ご協力をいただきながら、仏陀のみ教えによって人びとの心が豊かになり、そして世界に平和が訪れることを強く願いつつ、たゆまずに歩み続けてまいります。

合掌

新組織体制について

平成29（2017）年2月に沼田智秀前会長が亡くなり、このことは当協会にとって大変大きな支柱を失うこととなりました。しかしながら、沼田前会長の遺志を引き継ぎつつ、これからの活動をさらに広げていくべく、組織体制を新たにしました。

平成29（2017）年6月、定款を変更し、代表理事として会長 木村清孝、理事長 桂紹隆、常務理事 生田忠士を選定し、代表理事3名による業務執行体制を強化しました。

その後、生田忠士が平成29（2017）年12月末日をもって常務理事職を退任することとなり、後任として青木晴美が常務理事に就任しました。

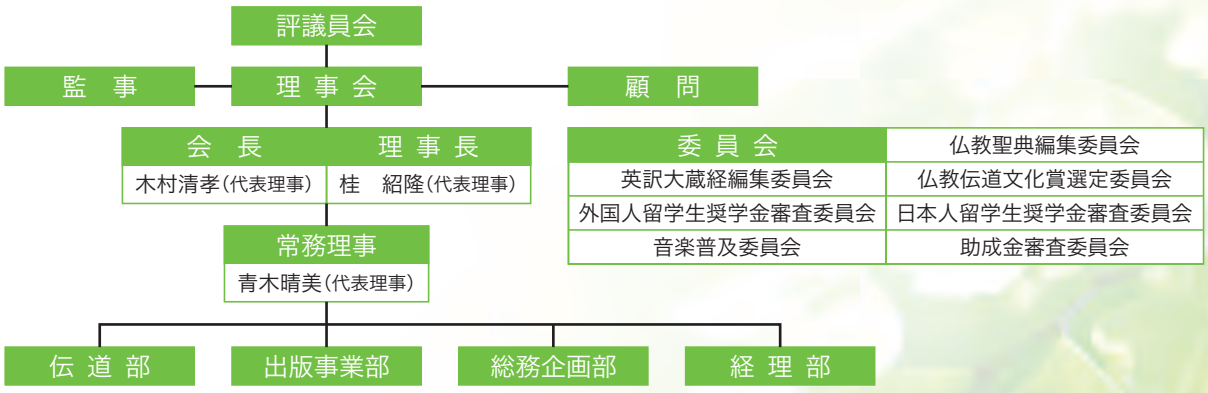
今後も役員、事務局職員一同、仏教精神、仏教文化、仏教学術を広く世界に伝えていくため、精進してまいります。

◉現在の組織および役員等構成は次の通りとなっています。

〈平成30(2018)年4月現在〉

役　名	氏　名	略　歴
会　　長	木村清孝	東京大学名誉教授
理 事 長	桂　紹隆	広島大学名誉教授
常務理事	青木晴美（常勤）	元株式会社ミツトヨ取締役常務
理　　事	上山大峻	龍谷大学名誉教授
理　　事	門脇邦彦	日本空港ビルデング株式会社名誉会長
理　　事	野村邦武	元富士銀行代表取締役常務
理　　事	沼田恵明	株式会社ミツトヨ代表取締役社長
理　　事	生田忠士	元株式会社ミツトヨ取締役
監　　事	中野東禅	竜宝寺前住職
監　　事	松村智司	元第一勧業銀行取締役
評 議 員	山田一眞	金剛院院主
評 議 員	小出忠孝	愛知学院大学学院長
評 議 員	市川智康	池上本門寺学頭
評 議 員	塩入亮乗	浅草寺法善院住職
評 議 員	平田史郎	国府台女子学院学院長
評 議 員	阿　純孝	圓融寺名誉住職
評 議 員	西本照眞	武蔵野大学学長
評 議 員	中谷忠雄	元株式会社ミツトヨ代表取締役専務
評 議 員	中川　徹	株式会社ミツトヨ代表取締役会長
評 議 員	中川敬史	株式会社ミツトヨ取締役上席執行役員

公益財団法人 仏教伝道協会　組織図



常務理事 **青木 晴美**

理事長 **桂 紹隆**

会長 **木村 清孝**

Activity 01

電子版公開

『とってもやさしい はじめての仏教』『GUIDE TO BUDDHISM IN JAPAN』『around TOKYO TEMPLE MAP』発行

スマートフォン世代や訪日外国人観光客など、より幅広く、より多くの方へ仏教文化や仏教精神を伝えるツールをリリースしました。

『around TOKYO TEMPLE MAP』

いまや必要な情報はなんでもインターネットで簡単に手に入る時代です。印刷された冊子を読む習慣のない人たちに仏教の教えや文化を親しんでもえらえるように、宗派を超えた仏教の入門書として、平成26(2014)年の発行以来、多くの寺院や学校等で活用していただいている『とってもやさしい はじめての仏教』の電子版の公開を当協会公式サイト(http://www.bdk.or.jp)で開始しました。

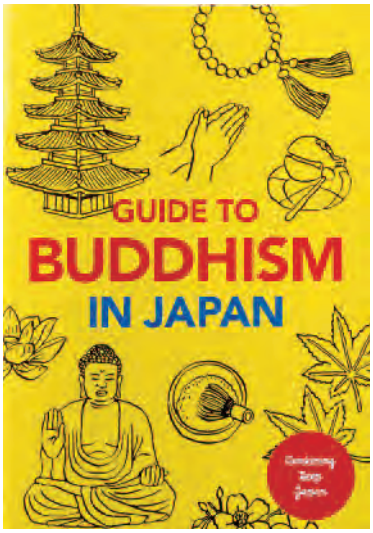
「仏教とはいったいどういう宗教なのか?」「お釈迦様って誰?」「いまさら聞けない仏教Q&A」など、わかっているようで、実は知らなかった仏教のあれこれを、イラストや写真を使いわかりやすく解説。スマートフォンやタブレットで気軽にさっと読める、仏教入門に最適な内容です。

そして、近年急増している外国人観光客のための仏教入門書『GUIDE TO BUDDHISM IN JAPAN』を電子版と冊子版で同時にリリース。日本を訪れる外国人観光客の多くが、寺院や神社に足を運びますが、お参りのマナーや仏教について、英語で質問されても対応できる人がいないなど、対応に苦労している寺院も多いのが実状です。せっかく日本の寺院や神社を訪ねるのなら、その文化的背景や参拝マナーなどを知っていただいた方が、より楽しく過ごせるはずです。『GUIDE TO BUDDHISM IN JAPAN』では、外国人が疑問に感じるであろう仏教に関するQ&A、寺院や神社での参

『とってもやさしい はじめての仏教』

拝のマナー、日本文化と仏教の関わりについてコンパクトにまとめています。観光客が多く訪れる寺院のほか、外国人向けの坐禅会を開催している寺院、ホテルのコンシェルジュ、観光案内所などで既に活用していただいています。

さらには、東京近郊にある外国人対応の可能な寺院や神社をMAP形式で紹介した『around TOKYO TEMPLE MAP』を制作。ポケットサイズで持ち運びが簡単です。こちらもホテルのコンシェルジュや観光案内所を中心に幅広くご活用いただいており、外国人の方がたに仏教を通じて日本文化に親しんでいただく一助になっています。



『GUIDE TO BUDDHISM IN JAPAN』

02 Activity 仏教伝道協会×週刊ホテルレストラン 共催「全国ホテルマネジメントセミナー」開催

仏教伝道協会の事業の柱として、全世界への『仏教聖典』の寄贈があります。おかげさまで、今日、世界62ヵ国主要ホテル13，700軒150万室に『仏教聖典』を常備していただいています【平成30（2018）年現在】。

昨今では、『仏教聖典』を常備するホテル数も年々減少傾向にあり、また新規ホテルの開拓も厳しくなっています。今一度ホテル関係者に当協会の活動を理解していただき、また日頃の『仏教聖典』常備に対するご協力への感謝の意を込めて、㈱オータパブリケーションズと共催で、「全国ホテルマネジメントセミナー」を開催しました。

セミナーの中で「グローバル時代における〝おもてなし〟」をテーマにホテル経営に携わる業界著名人と僧侶がトークセッションを行い、日本の仏教精神に基づく〝おもてなし〟の心や外国人誘致に必要なホテル関係者の心得を学ぶ場を設けました。今年度は北海道【平成29（2017）年5月29日於：札幌グランドホテル】・東京【2017年8月28日於：品川プリンスホテル】・福岡【2017年10月24日於：ホテルオークラ福岡】・京都【2017年2月13日於：ホテルグランヴィア京都】の4箇所で開催しました。毎回50名～80名の参加があり、仏教精神の奥深さをはじめ、当協会の活動を広く理解していただく機会となりました。

ホテルマネジメントセミナー開催風景

Activity 03

『仏教聖典』頒布の今
―平成29（2017）年度の頒布状況等

今年度は国内ホテルに向けて多数の『仏教聖典』を寄贈することができました。今後、訪日外国人の増加や2020年の東京オリンピック開催に伴い、東京を中心にホテルが増加するとの予測がでています。そのような新規ホテルに対しても仏教聖典を寄贈するべくアプローチしていく予定です。

〈平成29(2017)年の『仏教聖典』頒布状況〉1月～12月

		件　数	寄贈冊数	販売冊数
国内	ホテル(新規)	15	3,474	
	ホテル(補充)	124	17,564	
	病院(新規)	7	57	
	病院(補充)	7	56	
	学校(販売)	9		10,114
	学校(寄贈)	246	38,535	
	寺院(販売)			2,977
	寺院(寄贈)		390	
	一般他販売			569
	書店			1,453
	寄贈		1,128	
	国内頒布数計		61,204	15,113
海外	海外協力機関		33,992	
	ホテル	1,079	102,271	
	その他		24,335	
	海外頒布数計		160,598	
			221,802	**15,113**
総　計				**236,915**

海外向けではアジア諸国へ聖典を寄贈する大きな動きがありました。東南アジアのミャンマーのホテル協会から要請があり、ミャンマー全土のホテル約1，000軒に10万冊を寄贈することができました。また、インドにあるチベット系学校などへの寄贈プロジェクトとして2万冊の聖典を寄贈しました。仏教と非常にゆかりの深いこれらの地域で多くの『仏教聖典』が読まれることは大変嬉しい限りです。

そして、平成24（2011）年度以来続いている国内の仏教系学校や保育施設等への頒布活動は今年度も引き続き行われ、241校に対して38，535冊を寄贈し、累計寄贈数は327，000冊となりました。今後もホテル・病院・学校などさまざまな機関に積極的に寄贈していく予定です。

タシリンポ・モネスティ・スクールにて活用される『仏教聖典』

シリーズインタビュー

『仏教聖典』を訪ねて

創業1300年を迎えた老舗旅館でも活用される『仏教聖典』

◎取材協力=法師　第46代当主　法師善五郎氏
◎場所=法師（石川県小松市）
◎聞き手=（公財）仏教伝道協会　山村正範
◎編集・撮影=（公財）仏教伝道協会　江口郁

◎「法師」は養老２（718）年に創業、平成30（2018）年で1300年を迎え、かつては『ギネス世界記録』（主にギネスブックと呼ばれる）にも“世界で最も歴史のある旅館”として登録されたこともある日本屈指の老舗旅館です。そこで何故長年にわたり『仏教聖典』が活用されているのか、「法師」の仏教とのご縁も含め、そのお気持ちを第46代当主法師善五郎氏にお伺いしました。

第46代当主 法師善五郎氏と若女将 法師久恵氏

仏教伝道協会は、長年『仏教聖典』の頒布を主軸事業のひとつと位置づけ出版事業の中心として継続的な活動を行ってきました。近年はホテル・旅館などの宿泊施設はもとより、寺院、医療施設などに加え、教育機関でも教材として使用されるなど、様ざまな活用がなされています。

今回は、この『仏教聖典』を旅館の客室を中心に、ご活用いただいている「法師」第46代当主の法師善五郎氏にお話を伺うべく、石川県小松市、粟津温泉郷に静かに佇む「法師」を訪問させていただきました。

まずは「法師」の創業理念を教えていただけますか。また「法師」という旅館名は、仏教（文化・精神）と何か関わりがあるのでしょうか。

歴史を遡りますと、７１８年、泰澄大師という修験道の僧侶が、この粟津の地に温泉を発見したと伝えられ、その際に「法師」の名をいただき開業したのが由来です。お蔭さまで、今年で「法師」も創業１３００年目を迎えることができました。私たちの先祖（泰澄大師が白山を開山された際に山を案内した、木こりの笹切源五郎氏の次男で、その後泰澄大師に弟子入りしたとされる）もその弟子として僧侶になったと言われており、それがご縁で「法師」という名前を授かり、旅館の名前だけでなく苗字も代々「法師」を名乗っています。世の中の多くの方がたのために、この白山の水の豊かな地で、幸せと平和をもたらす存在として開業しました。平和の〝和〟という字は様ざまな使い方をしますが、よく〝和（あ）える〟と言いますよね。料理でも〝和え物〟なんて単語を使いますが、それは甘いものと酸っぱいものを合わせて全く違う味わいを出す、そして〝良い味を出す〟という意味です。素材一つひとつが喧嘩するのではなく、相乗効果で互いの力を引き出す、そういった意味なのです。〝和をもって貴しとなす〟昔からこの地では神仏習合で、互いが理解し合って和らげながら過ごしてきた歴史があります。

仏教が日々の生活に融けこんで

伝統的な丸窓が印象的な「法師」外観　お祭り用の暖簾がかけられている

いるのですね。では『仏教聖典』との出会いについてお聞かせいただけますか。

最初の出会いは、前回の東京オリンピックの時、私には東京で勤務していた時代があるのですが、当時はホテルの引き出しにあるものとしては『聖書』の方が有名で、折角仏教伝道協会さんから旅館の客室にも是非と頂戴した『仏教聖典』も（微笑みながら）まあ「聖書」と「聖典」と両方を客室に入れておけばいいか、程度にしか考えていませんでした。

ですが、その後滞在先の大阪のホテルで、偶然に再会しました。私が泊まった部屋で数日前に人が亡くなったと聞き、それで夜、変な夢を見たりして寝られなくなってしまったのです。その時『仏教聖典』が部屋にあるのを思い出し、すがる思いで初めてしっかり読んでみました。そのとき、ふと読みいってしまった自分に気が付き、何でも自分の心持ちひとつなのだと感じ、心が自然と安定していく感覚を得ました。私自身、仏教を身近に感じながら生活している自覚はありますが宗派にこだわるつもりもなく、たまたま仏教伝道協会さんも超宗派で活動されていますしね。ここによくいらしていた松原泰道先生も宗派にこだわりなく活動をされていました。

そうでしたね。松原泰道先生といえば当協会とも大変ご縁が深く、昭和、平成を通じた名僧の一人ですが、松原老師が、こちらによく宿泊されていたと伺いました。老師との交流についてお聞かせいただけますか。

松原老師は、私の亡くなった父と同い年だったので、私にとっては父親のような存在でしたね。特に老師の奥さま（母親と同じ年）とは親しいお付き合いをさせていただき、ゆべしや沢庵など、禅の世界では大切な食品がありますが、当館の板長が作るものを試食・指導していただき、遂に合格点をいただけるまで試作を繰り返したことがあります。

本当に優しく大らかなお人柄でした。とあるときに当館の仕入れ業者の方がたが、老師が宿泊している時に、著書に署名をしてほしいとお願いしたことがありましたが、食事の時間も割いて、一人ひとりのために署名してくださったこともありました。

松原先生らしいですね。そもそも、松原老師とはどのようにして出会われたのですか。

たまたま以前から老師の著書を数冊持っていまして、気になっていたところ、偶然にも知り合いの美術関係者が老師とも交流があり、その場で本人へ電話してくれ、ご紹介いただきました。そのようなご縁で、ロータリークラブでの講演を引き受けてくださり、当館の従業員向けにも研修の一環でお話をしていただいたこともありましたね。その際にご夫婦でお泊まりになって、当館のお湯も気に入ってくださったこともあり、その頃から親しくお付き合いさせていただいていました。その後も息子さん（故松原哲明師）ご夫婦とも交流があり、家族ぐるみのお付き合いでしたね。

そのようなご縁がございましたか。では、現在の貴館では、どのように『仏教聖典』をご活用いただいているのでしょうか。また何故『仏教聖典』を活用しようと思われたのかもお聞かせいただ

けますか。

私たちには、「法師」という名前に恥じぬよう、仏教を〝伝えていくこと〟しか出来ませんし、そのおかげで1300年も続けてこられているのだと思っています。ですから、いらしていただいたお客さまに、『仏教聖典』を客室に設置させていただく以外にも、希望される方には喜んで配布させていただいています。但し、いくら私たちが良いものだと思ったからと言って無理にお客さまに貴重な本や冊子を持たせたりはしません。『仏教聖典』や仏教にしっかりと向き合ってもらいたいからこそ、要らないという方には、無駄に配布はしません。先日も台湾から来た団体さんがあり、添乗員さんが沢山の冊子を配布してくれようとしましたが、要らない方には持たせないでほしいと伝えたりもしました。大事に扱っていただける方にこそ大切に読んでいただきたい、そして必要としている人には出し惜しみをせず出来るだけ提供する、そのような気持ちです。

『仏教聖典』を大切に扱っていただきありがとうございます。

ところで、先程館内のご案内でも拝見しましたが、エノキアン協会（1981年にフランスで発足した創業200年以上の歴史を持つ企業だけで構成される）にも加盟され、外国人観光客にも非常に人気のある貴館ですが、国際化という点では特に何か取り組まれていることなどはありますか。

昔（1990年代）は、こちらに宿泊してくださるお客様の99％が日本人でしたが、近年は各国から訪れてくださっています。（話をしている傍から、シンガポールから来たという家族連れやマレーシアから来た団体が続々とチェックインしている様子）ですから、各国語版の『仏教聖典』の存在は大きいですね。各国語版、とくに日本語と英語が対照になっているものがありますよね。対照になっていることによって、母国語だけでなく日本語にも興味を持っていただけますし、日本をもっと勉強したいと思っていただけるので特に良いと思っています。

繰り返しになりますが、仏教のおかげで続いてきたのだから、お返しをする意味で世界にそれを伝え続けて行きたい。息子を亡くしてふさぎ込んでしまっていた時期もあったのですが、そんなことではいけないと、自分なりに、国内外各地からいらしていただく皆さまに粟津の良さ、仏教の良さを伝えていきたいと思っています。

これまでにも様ざまなおもてなしをされてきたとは思いますが、東日本大震災を機に朝の講話を始められたと伺いました。その動機と思いについて、お聞かせいただけますか。

話は阪神淡路大震災の頃に戻りますが、その際にテレビで映し出された被災者の方がたが、〝お風呂に入りたい〟と訴えておられるのを見て、是非粟津温泉のお湯を活用したいと思い、バスで神戸へ皆さんを迎えに行きました。そして思いっきり当館の温泉を楽しんでいただき、避難生活で疲れた心と身体を少しでも休めていただければと精一杯おもてなしさせていただきました。当然その際には、相手は被災者ですから（御礼をさせてほしいと何度もお申し出いただきましたが）何も受け取らず、ニコニコと笑顔で、この難局を乗り切っていただきたいとの思いを伝え、お帰りいただきました。そうすると7、8年前だったでしょうか。11月のみぞれの頃に、とある四人組が来られまして、〝私たちがあの時、朝まで楽しませていただいたニコニコ四人組です〟と。震災当時から居た従業員と息子を傍らに彼らと思い出話に花を咲かせていたところ、その年が明けた3月11日に、残念ながら東日本大震災が発生してしまったのです。あの日、人も物も家も全てが津波に流されてしまいました。憎たらしいと思っていた人でも、もう会うことすら叶わなくなってしまった。会いたくないと思っている人でも会いたくて仕方なくなる時が来るかもしれない。人間ひとつしかない命ですから日々を大切に過ごさねば、と考えさせられましたね。

誰も地震や津波で亡くなりたいと思って死んでしまう人などいないはずです。ですが、その後、私自身が息子を失い、孫までも失いました。お客さまの中には、〝自分も息子を40代で亡くしたが、きっと彼はそれを望んで喜んで逝ったのだろう〟と仰る方がいました。ですが、私は、〝そんなはずはない。自分の息子はもっと生きたかったはずだ〟と、その意見に全く同意出来ず、その方と暫く議論したのでした。しかしながら、この意見の衝突も、お互い〝死〟というものについて話し合って理解し合おうとする、このようなご縁をいただけたのも、きっと仏教のおかげ、息子のおかげだと思えたのです。

私は70歳を過ぎて息子を亡くし、孫も亡くし、何故こんな目に遭わなければならないのかと悩み苦しみました。私は、あと何年生きられるか分かりませんが、それでも、もっと見えない大きな力で、残された時間をしっかりと生きなければならないと言われているような、きっとまだ生きていたかったに違いない息子や孫の分まで私が頑張って出来ることをしなくては・・・と思ったら悲しんでばかりいる暇はないと思い直しました。

息子の死から教わったこと、気づいたことは沢山ありますし、今ここに生かされているありがたみを感じ、〝生と死〟を考えるきっかけになりました。亡くなる前の息子は、月一回の朝礼で従業員約100名に一つの指示を出す、こういった日常でしたが、息子が亡くなった今、その指示を聞いた100名の従

業員一人ひとりが私に、息子から教わったことを教えてくれるのです。板長には〝今に和食が、フランス料理や中華料理のように世界に認められ注目される日が来る、だから私たちは安心安全な食材を提供しよう、見た目にもこだわって、輪島塗や九谷焼の器を使って和食ならではのおもてなしをしよう〟と言い続けていたそうなのです。朝礼では大勢を前に一度に一つの事しか言えませんが、そのような事を日々100名の従業員一人ひとりに伝えていたなんて、息子がいなくなってみて初めて死の偉大さを知り、生きているありがたみを学ぶことができるのです。

時間は戻すことが出来ません。刹那さえも戻すことはできない。（一呼吸ついて）亡くなった息子と会話したくなるときがありますね。いつまでも、くよくよしていたらいけませんが、ときどき自分の心の中で息子と会話をしています。

私の大好きな言葉（旅館のロビーにある大阪のお寺から譲り受けた禅語の掛け軸）で〝無事是貴人〟というものがあります。当初自分なりの解釈で、無事とは事故など何事もないことで、貴人とは貴族のことだと思っていたのが、後日、何もお返しを望まないことが無事、貴人は仏さまという意味だと知りました。ですから、何も望まないのが仏さまですよと。満足してあれこれ望まない＝全く欲がないのが仏さまだったのですよね。適度な欲は、それを活力にして社会がどんどん発展していくきっかけにもなり良いのですが、それればかりではいけません。まさにミツトヨさんのような精神でなくてはと思います。自分たちばかりが儲けてそれら全てを独り占めにして受け取るのではなく、仏教伝道協会さんの50年以上の活動を通じて社会のために還元していこうという、仏教という素晴らしい教えを世界に弘めていこう、伝えていこうという精神が素晴らしいと思っています。私も、みんなに安心してもらえる、信頼してもらえる存在になれたら、そう思い続けて毎朝可能な限り皆さまへお話をさせていただいています。

ご当主のお話をお聞きしていますと、まるで仏教講話を聞いているような気持ちになります。さて、旅館の経営という観点から何かお話いただけるでしょうか。

東京オリンピックが開催される前の頃の話です。〝火を出したらすべてを失ってしまう〟母はいつもそう言って火の始末を厳重にしていました。ですが、寝たばこの火の不始末で、昭和36（1961）年に遂に火事を出してしまいました。その際には、木造の6室と庭の木数本が消失しましたが、幸い怪我人もおらず、他所へ飛び火することもなく大事には至りませんでした。母は、ずっと〝先祖に合わす顔がない、大変なことをしてしまった〟と言い続け、後悔し続けていました。ですが父は、焼け跡に鉄筋で21室を作り、その上に宴会場まで作って更にお客さまを呼ぼうとしました。その後、高度成長の波に乗り、旅館業も順調そのもの、増築したらしただけお客さまが押し寄せてくださ

中国『蘇東坡』の七言絶句の最初：臨済宗建仁寺派大本山建仁寺（先々代）管長猊下の書

文箱の中には『仏教聖典』『慈悲』『ブッダのおしえ』などの冊子が保管されている

中庭を眺められる休憩スペース（故弁天宗管長猊下の書が掲げられている）

るような時代となりました。今思えば、当時親父（第45代善五郎氏）は、その後旅館に帰った私の好きなようにやらせてくれていただけなのですよね。先祖代々守り続けてきた伝統ある木造建てを取り壊し、鉄筋作りのものに建て替えたりしました。しかし、そのような時代も終わりを告げ、現在は私どもも含め旅館はお客さまを呼ぶことさえも苦労するようになりました。貴重な木造建築を取り壊してまで増築し、私は何ということをしてしまったのかと後悔しました。当時の私は、自分が成功していると思い込んで、失敗が近づいていることにすら全く気がつかない。母はいつも失敗していると思い込んで反省し続けていましたが、それは裏返せば成功への近道で、逆に成功していると思い込んで反省を怠ると、それは直ぐ側まで来ている失敗に気がつかず大事になってしまう、そう言うことなのです。

なるほど。（一同、善五郎氏の話に大きく頷く）成功と失敗も、生と死も表裏一体なのですね。最後に、今後の公益財団法人仏教伝道協会の活動に期待することは何でしょうか。

仏教伝道協会さんには本当に感謝の念しかありません。仏教と当館は切っても切れないご縁で結ばれています。無償で『仏教聖典』をはじめとする様ざまな本、冊子をご提供いただき、非常にありがたく思っています。これからは『仏教聖典』を読んだ方が、もう一歩先へ進める何かを検討されてはいかがでしょうか。やはり対照版の聖典は、海外からいらっしゃる方がたにとっては大変勉強になりますし、仏教とはこんなものだよと易しく簡単にした要素を加えるともっと良いかと思います。

この度は、「法師」という国内屈指の老舗旅館を訪問させていただくということで、当初は緊張もありましたが、直接お話を伺う機会に恵まれ、また、善五郎氏の柔和な人柄にも助けられ、大変有意義な時間を過ごすことができました。善五郎氏による朝の法話も拝聴させていただき、命というものは、無意味なものはなく、何でも働きがあってこその命だと、力強く話をされる姿に、格式高い旅館の中にも宿泊客を包み込む温かさを感じた気がします。

客室では『仏教聖典』をはじめとする当協会刊行の冊子が大事に文箱に入れられ床の間に設えてあり、こんなにも大切に扱ってくださっていることを実感しました。『仏教聖典』という一冊の本がもたらす御縁で、このような素晴らしい機会を得られ、また長い歴史の中で善五郎氏自身が人生の浮き沈みを経験してきたからこそ、この旅館を訪れる沢山の方がたを笑顔でお迎えできるのだと感じました。

仏教伝道協会では、今後も国を問わず宿泊施設における『仏教聖典』の活用を推進するとともに、宗教や国籍を超えた様ざまな考え方を持つ皆さまに親しんでいただける書籍づくりを目指してまいります。

◆「法師」に関するお問い合わせ・ご予約は公式サイトをご確認ください。
（http://www.ho-shi.co.jp/）

◆『仏教聖典』やその他出版事業に関するお問い合わせは、仏教伝道協会公式サイトをご確認ください。
（http://www.bdk.or.jp/）

法師善五郎
ほうし・ぜんごろう

●昭和13（1938）年石川県小松市生まれ。慶応大学法学部卒業後、国際観光旅館連盟勤務を経て、42歳で、第46代法師善五郎を襲名。粟津温泉観光協会会長、小松市観光協会会長、国際観光旅館連盟理事などを歴任し、地域貢献にも力を入れている。

法師
ほうし

●粟津温泉が開湯された養老2(718)年から法師の歴史が始まり、創業から約1300年間、宿を守り続けてきた。代々法師家の長男は善五郎を名乗り、現在は46代目。風呂は露天風呂付き大浴場や貸切風呂があり、豊富な湯量と泉質が自慢で、宿泊客が無料で楽しむことのできる飲む温泉などもある。館内4つの建物には60の客室があり、手入れの行き届いた日本庭園には皇族が植えた木々などもある。

04 「今、注目のミャンマー『仏教聖典』贈呈式参列と仏跡参拝の旅」開催

オウン・マウン ミャンマー観光大臣、ミャンマーホテル協会の支援を得て、『仏教聖典』（英語版／ミャンマー語版）10万冊を、同協会加盟ホテル約1，100軒に寄贈しました。

この10万冊の寄贈を記念し、当協会の木村清孝会長を団長として、「今、注目のミャンマー 『仏教聖典』贈呈式参列と仏跡参拝の旅」と題し、平成30（2018）年3月28日～4月2日の4泊6日のミャンマーツアーを実施しました。全国から一般参加者を募り、20名の方がたと共にミャンマーを訪れました。

ミャンマー国内の主要都市（ヤンゴン、バガン、マンダレー）の仏跡訪問をはじめ、ミャンマーホテル協会での『仏教聖典』贈呈式の開催、ヤンゴンの日本人墓地での追悼法要、さらにミャンマーの未来を担う子どもたちの得度式の援助と参列など、盛り沢山の内容となりました。

日本とは異なる仏教の在り方に新鮮さを感じつつ、ふたつの国の過去、現在、未来に思いを馳せ、仏教の精神文化が日常生活に色濃く残るミャンマーの素晴らしさを体験することができました。

『仏教聖典』を贈呈する木村会長（左）

ヤンゴン日本人墓地での追悼法要にて献花する参加者

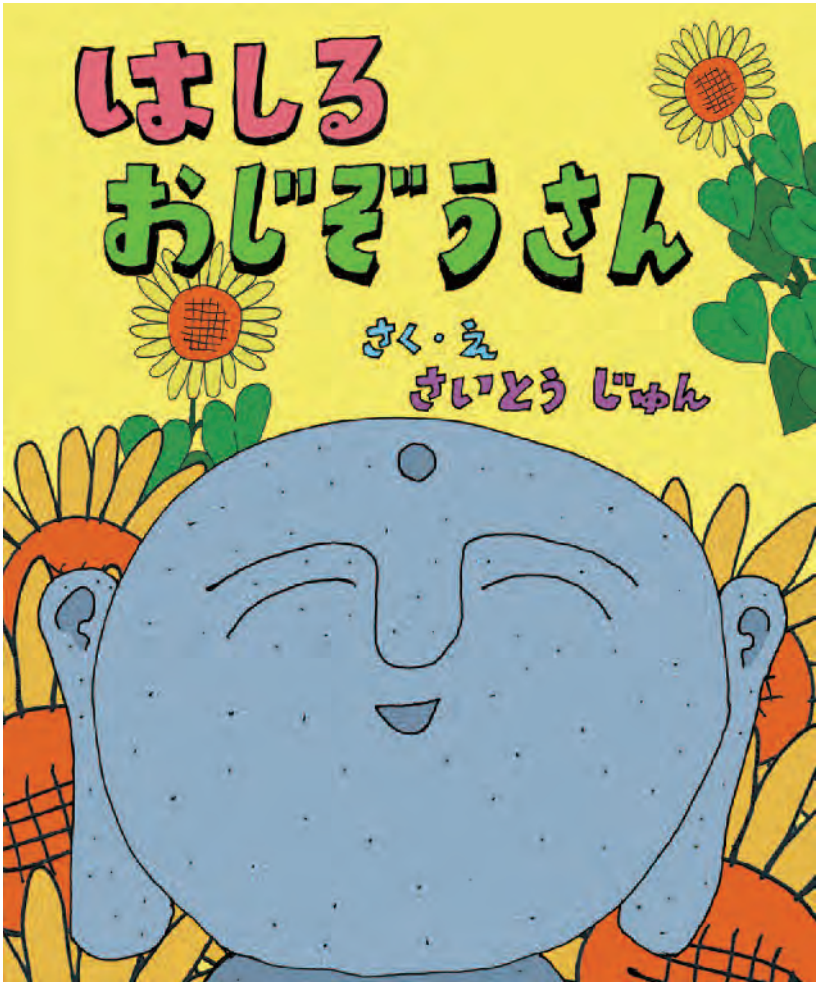
チャウタージー・パゴダ内ミャンマー最大の涅槃像

『仏教聖典』贈呈式にて：ミャンマー観光連盟関係者・参加者と共に

Activity 05

第2回「こころの絵本大賞」受賞作品決定

〝読み聞かせを通じて、子どもたちに「こころ」の大切さを伝えたい〟という理念のもと、平成28（2016）年から始まった「こころの絵本大賞」（協賛：鈴木出版（株）、後援：毎日新聞社、（公社）日本仏教保育協会、（公財）全国青少年教化協議会）が今年も開催されました。



『はしるおじぞうさん』

今回新たに西本鶏介氏（昭和女子大学名誉教授）を審査員に迎え、絵本作家の藤本ともひこ氏らと共に厳正な審査が行われました。その結果、総計80作品の応募の中、大賞1作品、優秀賞3作品、佳作5作品が決定しました。

第2回目の大賞に選ばれた作品は、さいとうじゅん氏の『はしる おじぞうさん』。道端に立っているお地蔵さんが困ったおばあちゃんのために奮闘する心温まる作品です。作者のさいとう氏は普段イラストレーターとして活躍し、現在までに様ざまな作品を出されています。大賞作品には50万円の賞金が贈呈され、平成30（2018）年3月に仏教伝道協会より出版されました。

著者 さいとうじゅん氏

平成30（2018）年4月には第3回「こころの絵本大賞」の募集を開始いたしました。お問い合わせは仏教伝道協会公式サイトにある「こころの絵本大賞」ページをご覧ください。
http://www.bdk.or.jp/kokoronoehon/

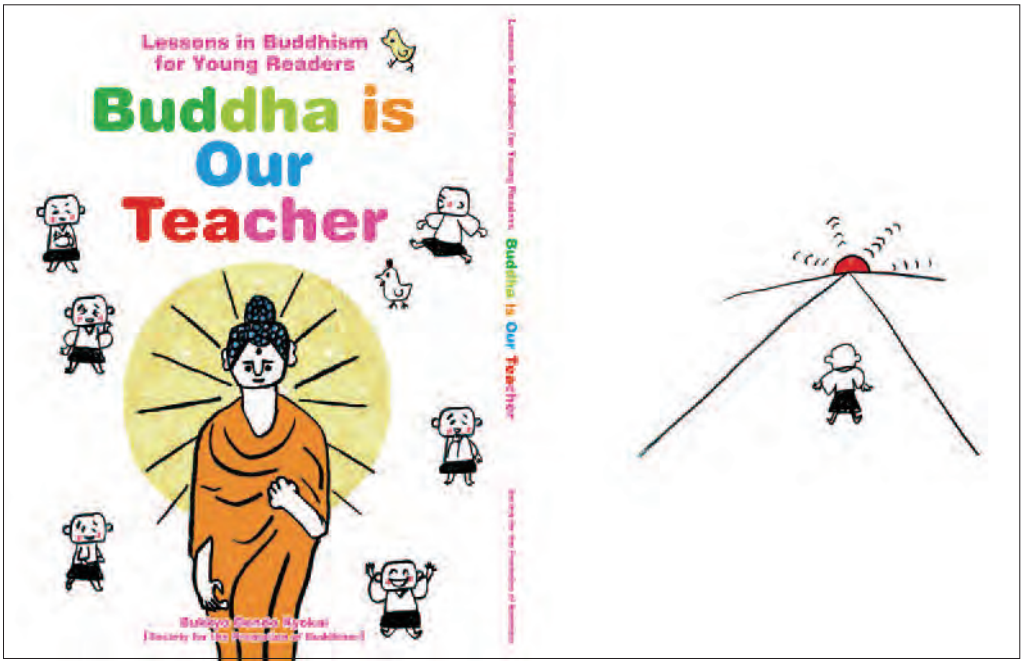
Activity 06

『Buddha is Our Teacher』（『ブッダがせんせい』英語版）刊行

〝やさしく、正しく、つよい心〟を育てる、子育て・心育ての本『ブッダがせんせい』の英語版『Buddha is Our Teacher』を刊行しました。

子どもたちに知って欲しい「本当にたいせつなこと」を伝えるブッダのことばを、かわいいイラストとともに紹介した『ブッダがせんせい』は、子どもの感性に響いただけでなく大人の心も揺るがし、22万部を頒布する大ベストセラーとなりました。

この度、この書籍を手にした海外の方がたからの「自国の子どもたちにもぜひ紹介したい」という強い要望にお応えして、英語版を発刊しました。国を越え、時代を越えて生きてきた仏教の「教え」を、日常にどのように活かし、実践するかを英語で伝える本書は、子どもばかりでなく、仏教をはじめて知る外国の方への紹介ツールとしてもご利用いただけます。



『Buddha is Our Teacher』（『ブッダがせんせい』英語版）』

07 Activity

第4回「一日一訓カレンダーフォトコンテスト」開催

写真展「第3回一日一訓カレンダーフォトコンテスト」開催（於 築地本願寺、平等院）

写真を通じて多くの方に仏教に親しんでもらうことを目的に、平成26（2014）年より毎年開催している「一日一訓カレンダーフォトコンテスト」は、今回で第4回目を迎えました。

第4回「一日一訓カレンダーフォトコンテスト」審査風景

平成28（2016）年度の入選作品を展示した写真展を築地本願寺（東京都中央区）や平等院（京都府宇治市）などの国内屈指の寺院にて開催したこともあり、応募総数は525件1，740枚と過去最多を記録しました。

平成29（2017）年9月4日に審査会を開催し、表紙を含む32枚を選定、入選者に賞状と賞金を贈呈しました。また入選作品は『日本カメラ2017年12月号』に掲載され、当協会公式サイトでもご覧いただけます。

尚、入選作品を掲載した平成31（2019）年用のカレンダーは、平成30（2018）年6月に刊行を予定しています。

「第3回 一日一訓カレンダー フォトコンテスト」の入選作品の写真展を平成29（2017）年7月15日から7月30日まで築地本願寺 本堂入口にて、同年8月4日から8月27日まで平等院ミュージアム（鳳翔館）にて開催しました。

オープニングセレモニー（左から鈴木氏、生田氏、神居師、石黒氏、芦田氏）

平等院での写真展は、初日にオープニングセレモニーを行い、フォトコンテスト審査員長の石黒健治氏、カレンダーの揮毫をお願いしている鈴木猛利氏、平等院住職の神居文彰師ご臨席のもと、近隣府県在住の入選者をお招きし、表彰やテープカットなどを行いました。神居師は「人が道を耕し進むまわりには、様ざまな風景が広がっており、その一瞬を切り取った写真に仏教のことばが合わさり、見事に調和している」と語られ、「このパネルは、インクの顔料、パネルの材料でできているが、写真展に携わった人たちの様ざまなご縁が形になった〝ほとけ〟そのもの」と、高く評価くださいました。また式典では、鈴木猛利氏による書道パフォーマンスやサイン会を開催し、多くのギャラリーで盛り上がりました。

写真展の来場者数は、築地本願寺では約1万人、平等院では約12万人と、非常に多くの皆さまに写真と仏教のことばに親しんでいただく機会となりました。

写真展「第３回一日一訓カレンダーフォトコンテスト」開催風景

書道パフォーマンスを披露する鈴木猛利氏

Activity 08

BDK「英訳大蔵経」事業報告

英訳大蔵経編集委員会

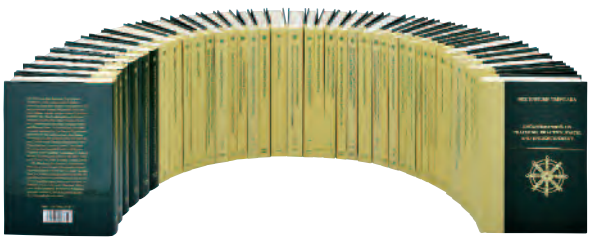
英訳大蔵経編集委員会では、諸般の事情で刊行が遅れている典籍について、その具体的な解決策について議論を重ねています。ケネス田中委員長を中心に、海外の翻訳担当者を訪問し、その進捗状況を確認することに加え、懸案であった照合作業のデジタル化など、スピード感のある効率的な事業推進を目指しています。

また国際真宗学会（於 武蔵野大学）や英語翻訳版『伝光録』出版記念シンポジウム（於 曹洞宗宗務庁）等の学会にて専用ブースを出展し、研究者向けに、学術研究や教育現場における「英訳大蔵経」の更なる活用法を、積極的に紹介させていただきました。

平成29（2017）年の出版は、儒教・道教からの仏教批判に対して仏教側の反論・擁護する史料を集成した、当時の比較宗教論といえる『弘明集(2)』（全二巻完結）の1冊を刊行しました。

国際真宗学会に出展したブース

『仏教聖典』やBDK「英訳大蔵経」をはじめとする出版事業に関するお問い合わせは、当協会公式サイトにてご確認ください。
（http://www.bdk.or.jp）



BDK「英訳大蔵経」

平成29（2017）年度「外国人留学生奨学金」制度のご紹介

「外国人留学生奨学金（BDK奨学金）」制度は、海外から来日し仏教研究をする外国籍の学者、研究者または学生に対して、それぞれが自国に戻り、日本で学んだ仏教精神、文化等を、学問を通じ、ひろく世界に伝えていただきたいとの長い年に設立されました。

第28回目となる平成30（2018）年度「外国人留学生奨学金」受給者は左記3名（申込順、敬称略）を選出しました。新たなBDK奨学生3名にも大いなる期待を込めつつ、昨年度の奨学生より受給報告が届いていますので、ご紹介します。

●Vladimir Angirov（アンギーロフ・ウラディーミル）氏
国　籍：ドイツ・ロシア
所属機関：九州大学大学院
指導教授：片岡啓
研究内容：ジュニャーナシュリーミトラ著『主宰神論』批判校訂に向けて

●Meghan Howard（メガン・ハワード）氏
国　籍：アメリカ
所属機関：早稲田大学
指導教授：山部能宜
研究内容：『瑜伽師地論』と、法成（Chos grub）の敦煌写本中の講義録『瑜伽論手記』と『瑜伽論分門記』を研究予定

●Gilsan Lee（李・吉山）氏
国　籍：韓国
所属機関：東京大学大学院
指導教授：高橋晃一
研究内容：初期瑜伽行派の染汚意の概念史

第27回 平成29（2017）年度 外国人留学生奨学金 受給者

◇カタジナ・マルチニャク 氏

■国　籍：ポーランド
■所属機関：創価大学・国際仏教学高等研究所
■指導教授：辛嶋静志
■研究内容：最古の写本二本（SaとNa）に基づいて、『マハーヴァストゥ』の新校訂本を作成。

八王子の大雪を背景に（Katarzyana Marciniak氏）

1 応募のきっかけ
2 受給して最も良かったと思うこと
3 今後の展望

1 私は仏教梵語で書かれた『マハーヴァストゥ』の研究に2010年から取り組んでいます。日本に来て仏教研究の分野で優れた業績をあげている辛嶋静志教授の指導の下で研究することが夢でした。そこで、日本で高度な研究を遂行し、また私と同様の関心を持つ日本人研究者たちに出会うことを期待し、BDK奨学金に応募することにしました。

2 BDK奨学生として採用されて最も良かったことは、日本のすばらしい学術機関で高度な研究やこの国の文化と人びとに接することができるということです。本奨学金は、研究プロジェクトの遂行を可能にしてくれました。また、様ざまなイベントに参加するなど日

本の多様な日常生活を楽しむ機会、また日本語を学ぶ機会を与えてくれました。

3 今後も仏教梵語文献の研究を続け、将来は、母国ポーランドで仏教文献学に興味を抱いている学生たちを励まし、サポートしたいと思っています。また現在学んでいる技術を、私自身の将来の研究プロジェクトと学問的キャリアに活かせたらと思っています。

辛嶋静志教授（左）Katarzyna Marciniak氏（右）

◇ジュティ・ラキット・シュラマン師

■国　籍：バングラデシュ
■所属機関：東京大学大学院人文社会系研究科
■指導教授：蓑輪顕量
■研究内容：初期経典のイティブッタカItivuttaka の中に見られる如来の語の分析。

1 私は上座部仏教の僧侶です。15年前から、パーリ文献を中心とした研究と実践を行っています。私は子供の頃に、師匠より、日本は仏教国であり、日本の文化は世界で有名であること、さらに、仏教は日本の文化に大きな影響を与えうるものであると教わりました。そのため、私は仏教を専門的に研究し、日本文化を学ぶための機会を探していました。最終的に私は仏教伝道協会の活動を知り、ＢＤＫ奨学金に応募しました。日本での研究に対する、当初の私の期待は実現しつつあります。

2 ＢＤＫ奨学生で最も良かったと思うことは、第一に、私にとって夢の国であった日本で研究を継続することができることです。第二に、世界的に有名な東京大学において、日本の研究者と、仏教や日本文化の高度な研究に参加することができることです。

3 私は現在、仏教の伝道と布教のために、専門的にブッダの教説を研究することに専念したいと熱望しています。そして研究が終わった後には、社会の調和、国家の繁栄、そして世界平和を目的として、仏の智慧を得ることによって、人びとが慈悲深い人間性を形成するための国内外の啓発活動に取り組みたいと思っています。

Juti Rakkit Shraman師（左）蓑輪顕量教授（右）

◇ドゥルテ・カマリッド 氏

■国　籍：ドイツ
■所属機関：国際仏教学大学院大学
■指導教授：斎藤明
■研究内容：近年公刊されたカダ派全書に含まれる、後伝期チベットに中観プラーサンギカ派の導入を基礎づけたニマタク（1055―）作の『中論注釈』を分析・考察。

斎藤明教授（左）Dörte Kamarid氏（右）

1 概して日本にはチベット仏教中観派の分野において、偉大な学術研究と業績があります。私は現在ニマタク著『中論注釈』を研究し、インドとチベット間の文化的変化、チベット中観プラーサンギカ派の発展について解明しようと努力しています。この研究テーマについては斎藤明教授のご指導を仰ぐことが最善であると考えています。斎藤教授からご指導をいただけること、また、国際仏教学大学院大学で勉強できるということで、BDK奨学金に応募しました。貴奨学金制度は、日本の仏教研究のさまざまな学者と出会い、協力する大きなチャンスを与えてくれます。仏教伝道協会は、仏教研究に取り組む学生や研究者に深い関心を示され、仏教の研究における国際的な関与を促進することを目的とした1年間の奨学金をご提供いただけることは、私にとって何よりも有り難く、奨学金に応募することにしました。

2 日本にいることが、日本の仏教の知識を深めるとともに、日本と海外の学者たちが築いた仏教全般とチベット中観派の文献学的分野の研究に触発される大きな機会です。奨学金の受給者であることにより、仏教伝道協会の活動をより詳細に知ることができます。貴協会は様ざまな活動をされており、私が、その家族の一員であり、一年間サポートしていただいていることは非常に貴重な機会であり、心強く感じています。また、貴協会による次世代の仏教研究を支援する取り組みを知ることができ、そして協会主催の多様な活動やイベントにも参加し、直接その活動を体験することができ、大変有り難く思っています。

3 将来の私の目標と展望は、一般的な仏教研究の学術分野、また、仏教文献学において、さらにチベット仏教において積極的に参加することです。同時に研究活動及び古い言語で書かれた仏教文献の翻訳作業に従事し、強化したいと考えます。私は英語、その他のヨーロッパ言語や南アジア言語を使うことができますので、大いにお役に立てると思います。学問的なアプローチと同時に、(単に資料としての)外面性に留まらず内面的に仏教文献を理解し、仏教の豊かな遺産を現代世界に残すために、仏教学に貢献することを目指しています。私の目的は、この分野で近い将来出版物を提供し、学問としての仏教及び仏教文献学に関する東西の交流を促すことです。日本での私の勉強と研究の時間については、3年間の博士課程を修了することを目指しています。貴協会が私の日本での滞在を支援していただいていることに、深く感謝しています。

平成29（2017）年度「日本人留学生奨学金」制度のご紹介

「日本人留学生奨学金（BDK奨学金）」は、日本から海外に渡り国際的な視野を養い、将来の仏教学術振興に貢献しうる日本人の若手研究者を育成したいという願いから、平成24（2012）年に設立されました。

第6回目となる平成30（2018）年度のBDK奨学生は、平成29（2017）年12月に開催された審査委員会による厳正な審査の結果、左記3名（五十音順、敬称略）に決定しました。

尚、第5回目となる平成29（2017）年度の受給者2名（五十音順、敬称略）より感想が届いていますのでご紹介します。

〈1年留学支援〉

山崎　一穂
留学先：マクマスター大学（カナダ）

〈短期留学支援（6ヶ月）〉

鈴木　伸幸
留学先：ライデン大学（オランダ）

秦野　貴生
留学先：オーストリア科学アカデミー（オーストリア）

第5回

平成29（2017）年度 日本人留学生奨学金 受給者

1 応募のきっかけ
2 受給して良かったと思うこと、今後の展望
3 海外での生活で一番気に入っているところ（または驚いたところ）

◇西山 亮（にしやま・りょう）氏

■留学先：ボストン大学
■指導教授：マルコム・デイビッド・エッケル
■研究内容：清弁の思想研究

1 2014年、京都でのワークショップにてエッケル教授に出会い刺激を受けたのが、きっかけです。

2 日本では仏教を理解する上で、伝統的な漢訳のことば（涅槃など）を用いますが、英語ではそれができないので、単語の意味をよく考えるようになりました。よりシンプルなことばで仏教を的確に発信できる能力を身につけたいと思います。

3 研究を、生活を、そして人生をエンジョイすることに長けた人に多く出逢え、また、道端で遭遇する野良の七面鳥に驚かされています。

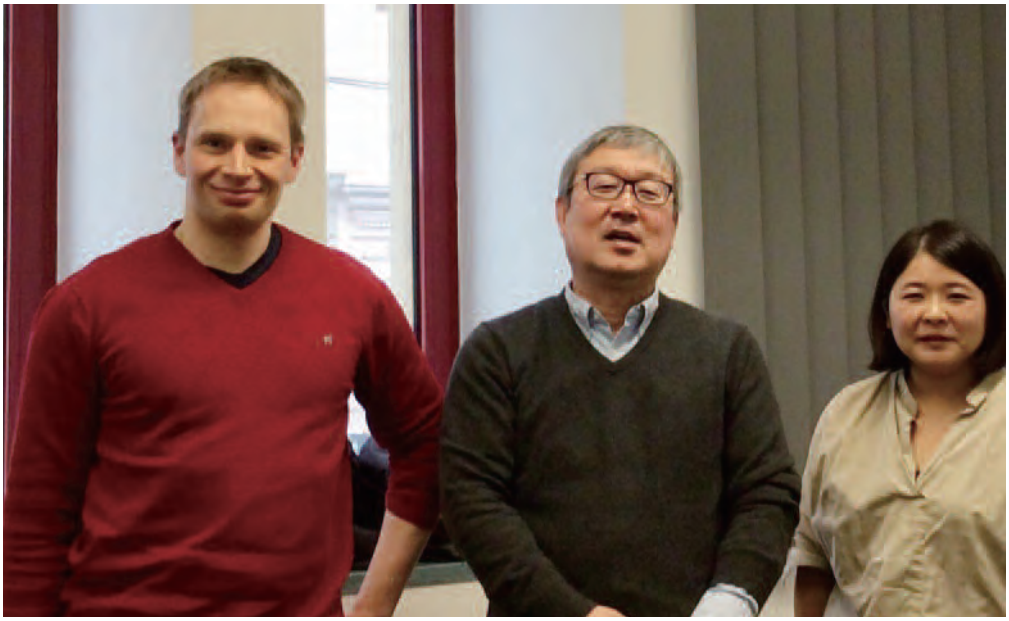
ボストン大学研究室にて
エッケル教授（右）西山氏（左）

公益財団法人 仏教伝道協会

平成29(2017)年度の主な活動

◇松岡 寛子（まつおか・ひろこ）氏

■留 学 先：ライプツィヒ大学インド学・中央アジア学研究所
■指導教授：エリ・フランコ
■研究内容：カマラシーラ著『摂真実論釈』「序章」の研究



ウィーンでの研究会にて　京都大学　船山教授（中央）と松岡氏（右）

1 私は、カマラシーラ（8世紀）著『摂真実論釈』、ヤマーリ（11世紀）著『量評釈荘厳注』等のインド仏教注釈文献の「序章」に議論される、我々があらゆる活動を開始する動機とは何かについて研究しています。フランコ教授を中心に世界初の『注』校訂本出版をめざす当研究所に留学したく、諸先生の助言のもと、当奨学金制度に応募するに至りました。

2 インド仏教研究を牽引してきたドイツ・オーストリアで二年間に亘り研究活動を行うことは貴重な経験となりました。この経験を活かし、教育研究活動に携わっていきたいです。今後三年間はライプツィヒで『注』プロジェクトに従事する予定です。

3 EU内の移動が簡単なため、ライプツィヒを拠点としながらも広く活動できる点です。現在はウィーンにて船山徹教授による“Chinese materials for Indian pramāṇa traditions”研究会に参加しています。

尚、平成30（2018）年度分の募集より、短期留学制度も設置し、より柔軟な留学支援が可能になりましたので、より多くの皆さまにご応募いただきたいと考えています。奨学金制度の概要、応募方法等、詳細につきましては当協会公式サイトをご確認下さい。
http://www.bdk.or.jp

第51回「仏教伝道文化賞」受賞者紹介

仏教伝道文化賞は、国内外を問わず、仏教研究・芸術・伝道等の様ざまな分野で仏教精神・文化の発展に貢献した方を顕彰するため、昭和42（1967）年に制定、平成24（2012）年からは今後の仏教伝道を通じた文化活動の振興が大いに期待出来る方を対象とした沼田奨励賞を新設しています。

第51回目となる今回は、仏教伝道文化賞並びに沼田奨励賞を選定するにあたり、国内外の各仏教宗派をはじめ、各研究機関および専門家の方がたに推薦状を送り、推薦をお願いしました。

お寄せいただいた推薦状に基づき、平成29（2017）年7月に選定委員会を開催し、厳正な審査を行い、全会一致で受賞者を決定しました。

第51回仏教伝道文化賞贈呈式

石牟礼道子氏はご欠席のため、ご子息の道生氏に代理出席いただき、後日、ご本人より受賞にあたり喜びのコメントをいただきましたので、ご紹介させていただきます。

「仏教伝道文化賞」受賞関係者

仏教伝道文化賞

石牟礼 道子 氏

（いしむれ・みちこ）

1927年熊本県生まれ。『苦海浄土』を刊行、文明の病である水俣病を仏教の視点で世界に問題提起、その後も宗教性・芸術性の香り高い文学作品を残した功績。

仏教伝道文化賞 沼田奨励賞

釈 徹宗 師

（しゃく・てっしゅう）

1961年大阪府生まれ。宗派を超えた伝道布教活動に尽力。福祉関係のＮＰＯ法人を運営する等、多岐にわたる活動を讃えて。

この度、『苦海浄土』をご評価下さり文化賞という栄誉を賜り仏教伝道協会様、選定委員及びご関係の皆さまに心から厚く御礼申し上げます。『苦海浄土』は、全国の志ある人たちのおかげで、日本の近代化ということを何かと内面化することができました。

聞くに忍びない言葉が流行り、言葉の意味や品性は希薄になり、あわせて人間性も希薄になっているとつくづく思います。畑のそばの野道で遊んでいた子供が、一人のおばあちゃんに頭をなでてもらいます。「魂の深か子じゃね」

中央にも文壇にも仏教の教団にもかかわりのないおばあちゃんの言葉、手の温かみを、その子供は一生忘れないことでしょう。仏様のように頭をなでてくれた存在やその言葉をこそ大事だと思い、生きながらえております。

仏教伝道協会様のますますのご発展をお祈り申し上げます。

平成30年１月１日　石牟礼道子

このような大変温かいお言葉をくださった石牟礼氏でしたが、平成30（2018）年2月10日に逝去されました。石牟礼氏の生前のご功労を讃えつつ、お人柄の通りの優しさ溢れるメッセージを、謹んで掲載させていただきます。

そして、釈徹宗師は、受賞の喜びについて、「日ごろ敬意をもっている仏教伝道協会様からの受賞に、大きな喜びを感じております。大学院生の時に、ドイツでミツトヨの方がたから親切にしていただき、そのご縁から貴協会の成立経緯や活動について詳しく知ることとなりました。あれから三十年以上を経て、沼田先生の名を冠した賞をいただくことになろうとは。これまでの受賞者のお名前を見ると、自分が連なるのは汗顔の至りですが、『もっと精進せよ』の叱咤と受けとめて、これからもコツコツと仏道を歩んで行こうと思います」と述べられました。

仏教伝道文化賞ならびに沼田奨励賞の概要および過去の受賞者一覧等の詳細は、当協会公式サイトをご確認ください。
http://www.bdk.or.jp

沼田奨励賞を授与される釈徹宗師（右）

審査報告をする大久保良峻
仏教伝道文化賞選定委員長

代理で答辞を述べる石牟礼道生氏（仏教伝道文化賞
石牟礼道子氏ご子息）

平成29（2017）年度「助成金事業」報告

平成28（2016）年度より、より多くの助成金交付申請を受付け、幅広く仏教伝道協会の活動理念を理解し事業を展開される個人・団体を支援すべく、助成金交付要綱を変更した結果、平成29（2017）年度の助成金交付申請は28件でした。助成金交付審査員会における厳正なる審査を経て、以下21件の申請が採択され、助成金を交付しました。

その他、助成金制度の詳細や申請方法につきましては、当協会公式サイトをご確認ください。http://www/bdk.or.jp

個人・団体名	事　業　名
日本印度学仏教学会	学会の情報化対応を介した国際的学術交流及び文化貢献の促進事業
彼岸寺	インターネット寺院　虚空山彼岸寺運営事業
一般社団法人　向源	寺社フェス「向源」実行事業
一般社団法人　真人会	福島の子どもを招待する修道研修会事業
一般財団法人 大日本仏教慈善会財団	医療者と協働できる僧侶の育成事業
心の相談室	電話相談事業
公益財団法人　全国教誨師連盟	教誨師の研修事業
宗教法人 臨済宗妙心寺派　佛母寺	日本仏教実践授業講座
一般財団法人 東京大学仏教青年会	大学仏教青年会連合設立事業
東北大学大学院実践宗教学寄附講座	臨床宗教師育成事業
NPO日印交流を盛り上げる会	もっと知ろう ー婆羅門僧菩提僊那を継承するー運営事業
一般社団法人　日本作曲家協議会	アジア音楽祭2017 スペシャルイベント “Prayer”運営事業
十夜フェス実行委員会	十夜フェス実行事業
寺超会議実行委員会	北九州寺院活性化事業
全日本仏教青年会	ティク・ナット・ハン／マインドフルネス・ リトリート交流“応用仏教～ブッダの教えを現代にいかすために～”開催事業
龍谷大学　龍谷ミュージアム	2017年　秋季特別展 「地獄絵ワンダーランド」開催事業
公益財団法人　中村元東方研究所	平成29年度研究調査事業
公益財団法人 シャンティ国際ボランティア会	2017年度ミャンマー児童図書改善事業
カリフォルニア大学 バークレー校 仏教学センター	沼田仏教講座活動助成
シカゴ大学神学部	沼田仏教講座活動助成
ライデン大学	ライデン大学仏教学設立60周年記念事業 仏教学学会

3 啓蒙活動・支援事業・仏教講座の開催
Enlightenment / Support / Buddhism course

Activity 01

第47回「実践布教研究会」開催
於　浄土真宗本願寺派本願寺他

日本仏教の祖師がたが歩まれた道を、現代に生きる僧侶等が自ら体験することによって、聞、思、修一体となった仏道を体験していただきたいという願いから、毎年各本山を会場に開催する研修会が「実践布教研究会」です。

本願寺にて一般の参拝客の方がたと共にお称えをする参加者

第47回【平成29（2017）年6月6日～8日】は「布教伝道―親鸞聖人に学ぶ」をテーマに、浄土真宗本願寺派本願寺および聞法会館（京都市）にて開催し、宗派を超えて僧侶、寺族ら52名が参加し、講話や僧侶同士の討議で学びを深めました。

初日の開講式では、浄土真宗本願寺派 大谷光淳門主にご臨席を賜り、お言葉をいただきました。また本堂をはじめ書院や飛雲閣などの諸堂を拝観。二日目には、諸先生がたによる講義を拝聴。カール・ベッカー氏には「浄土信仰の科学的根拠」、深川宣暢師には「生死出づべき道―親鸞聖人の仏教と伝道―」、釈徹宗師には「伝道について考える」と題してご講話をいただき、その後、龍谷ミュージアムを見学しました。

また「実践布教研究会」の名物である全員参加による分科会では、「現代人に三世因果（来世）をどう説くか」と題し、5班に分かれ議論を深めました。参加者からは、「他宗派の方がたと触れ合うことが出来、異なる教義、考え方、他宗派の方から自宗派がどう見えているかなど、とても勉強になりました。」「毎朝のお晨朝では、訪れたご門徒の方がたと共に念仏を称え、温かい気持ちに包まれました。」など、沢山のお声をいただきました。

深川宣暢師による講義を拝聴

分科会にて熱心に話し合う参加者

過去の開催経過および今後の予定については、当協会公式サイトをご確認ください。
http://www.bdk.or.jp

Activity 02

「特別坐禅会」開催 於 曹洞宗大本山總持寺

仏教になじみのない方にも、仏教精神や仏教文化にもっと触れていただくため、平成29（2017）年10月1日 曹洞宗大本山總持寺において、坐禅とヨガと精進料理を体験する講座を開催しました。

曹洞宗大本山總持寺で昨年に続き第2回目の「特別坐禅会」を開催しました。

気持ちよく晴れた10月1日、朝早くから約100名の参加者が三松閣の大講堂に続々と集まり、まずはヨガからスタート。今回は、ヨガ指導者の養成や、様ざまなヨガイベントで全国を飛び回っている佐藤ゴウ氏を講師としてお迎えしました。普段男性限定のヨガイベントも主催されているせいか、昨年よりも男性の参加者が多く見受けられました。

1時間にわたり、坐禅前に体を整えるためのヨガを行ったあと、總持寺布教教化部参禅室長の花和浩明師と佐藤ゴウ氏に、仏教とヨガとの関わり、坐禅とヨガの違いなどを中心にお話いただき、その後、花和師よりご法話をいただきました。

そして坐禅堂へ移動して坐禅。初めての方も経験がある方も、坐禅堂の厳かな雰囲気の中、おのおののペースで坐禅と向き合いました。坐禅の後は希望者のみ精進料理の昼食をとり、諸堂拝観もするという盛り沢山な内容となりました。

参加者からは「普段は休みだからお寺に行こう、という気持ちにはなかなかなれない。こういう機会があると嬉しい」「来年もまた来ます」という嬉しい声も多く聞かれました。

大講堂でのヨガ体験

厳かな雰囲気の坐禅堂に移動して坐禅体験

参加者全員での記念撮影

03 Activity

「知っておきたい　禅と食」開催
於　曹洞宗宗務庁研修道場

日常生活に欠かせない「食」と仏教の関係について学んでいただく講座「知っておきたい　禅と食」を平成29（2017）年10月21日（土）に開催しました。

吉村昇洋師による講義を拝聴

冷たい雨が振る中、約50名の参加者が曹洞宗宗務庁の道場に集まりました。まずは僧侶の指導による坐禅体験。そして曹洞宗における「食」についての歴史、考え方の講義へと進みます。

講師は、食に関する著書やテレビなどメディアへの出演も多い、曹洞宗普門寺副住職の吉村昇洋師。「精進料理とは何なのか？」「典座の心得とは？」「仏教における肉食とは？」など、初心者にもわかりやすい解説に、参加者は熱心に聞き入っていました。

吉村師（中央右）藤井氏（中央左）を囲んで
坐禅・食事指導をしてくださった曹洞宗僧侶の皆さま

講義の後は、精進料理家の藤井小牧さんによるお料理を提供。生姜ご飯、車麸のカツ、白菜の煮浸し、国生汁、切り干し大根の煮物を、応量器も使用し、伝統的な作法の一部も体験しつつ召し上がっていただきました。

参加者からは「作法が難しかった」「初めて知ったことが多く勉強になった」「食事に集中するって素晴らしい！」など好評をいただきました。作り、食べる行為自体が仏道修行となる精進料理。今回の講座を通じて、日常生活での食との向き合い方のヒントを得ていただけたようです。

坐禅・椅子坐禅の体験

Activity 04

第18回 仏教音楽祭開催 「Buddhaspel（ブッダスペル）Peaceful Light～平和の光」 於 紀尾井ホール

オーケストラをバックに御詠歌「空華」を披露する梅花流師範の皆さま

平成29（2017）年11月8日、第18回「仏教音楽祭Buddhaspel（ブッダスペル）Peaceful Light～平和の光」を紀尾井ホール（東京都千代田区）にて開催しました。

第18回の新たな試みとして、梅花流師範8名をお招きし、伝統的な御詠歌をはじめ、〝平和讃御詠歌〟と称したオーケストラの伴奏でアレンジされた新しいご詠歌「空華」が初披露されました。

今回は平和をテーマに〝平和ソング〟を製作。当日は、作詞を手がけた夢枕獏氏、作曲の松下功氏、仏教伝道協会音楽普及委員会委員長の逸見道郎師が登壇、楽曲に込めた仏教的な平和への願いを語っていただきました。続いて〝平和ソング〟3曲をソプラノ歌手の小林沙羅氏が美しい声で歌い上げ、ドイツ人フルート奏者のアンドレアス・ブラウ氏による故沼田前会長に捧げる「フルート協奏曲《JODO》」、東京藝術大学学長の澤和樹氏とヴァイオリニスト長原幸太氏によるヴァイオリンの協奏曲が披露されました。そして最後は、和太鼓奏者林英哲氏の迫力のあるオーケストラとの共演で盛大に締めくくられました。

50名を超えるオーケストラを率いての「仏教音楽祭」開催は約30年ぶり、新曲制作も17年ぶりでしたが、当日は前回を上回る約600名が来場し、紀尾井ホールの厳粛な雰囲気と生の音を存分に味わっていただきました。

また更に今回の新曲〝平和ソング〟の楽譜をご来場の皆さまへ配布し、その後各仏教系の高校、大学等の合唱部、そして「仏教合唱交流会」の参加団体へ送付しました。

和太鼓奏者 林英哲氏とオーケストラの共演

ソプラノ歌手 小林沙羅氏【上】
和やかな雰囲気の三者対談【右上】
（左から逸見師、松下氏、夢枕氏）
フルート奏者 アンドレアス・ブラウ氏【右下】

Activity 05

各種定例講座のご案内

当協会では事業の目的のひとつに「仏教精神とその文化興隆の為の啓蒙活動」を掲げており、各種講座を主催しています。

▼仏教聖典を経営に活かす会

経営者の方がたには人を大切にする経営を、一般の社会人の方がたには人生の道標の一助となるように、仏教が持つ東洋の叡智と慈悲の精神に一人でも多くの人が触れていただくため、平成29年度は、新たに、中野東禅師（曹洞宗僧侶）・山田義俊師（浄土真宗本願寺派林光寺住職）の両師を招き、月1回（第3水曜日18時～）開催しました。

▼仏教聖典を生活に活かす会

宗派にとらわれず、仏教精神を日常生活に活かすことを目的に『仏教聖典』をテキストとした、心に深く響くご講師のお話と和やかな雰囲気の中で仏教精神に触れられる勉強会で、平成29年度は前年度に続き、一島正真師（天台宗泉倉寺住職）・田中ケネス師（武蔵野大学教授）の両師を招き、月1回（第4木曜日13時半～）開催しました。

生活に活かす会（講師：一島正真師）

▼BDK坐禅会

今日、多くの方が、様ざまな環境下でストレスを溜め込んでしまい、こころに余裕が持つことができないという声を聞きます。このような方がたに坐禅を通して、こころや頭の整理をしていただくため坐禅会を主催しています。平成29年度も昨年度に続き、天台宗圓融寺ご住職の阿純章師を招き、月1回（第3火曜日20時～）、わかりやすい法話と坐禅（止観）の指導を賜りました。

▼三田落語会

日本の伝統芸能の多くは、仏教の節談説教にその源があるといわれており、なかでも最も庶民に親しまれ、語り継がれてきたのが落語です。三田落語会は正しい姿で継承した落語を、また埋もれている数多くの噺を掘り起こしてあらたに世に紹介し、落語を通じてその根幹を流れる仏教精神を触れていただく落語会です。平成29年度は隔月（偶数月）で開催しました。

三田落語会（柳家権太楼師匠）

Activity 06

仏教聖典を経営に活かす会・仏教聖典を生活に活かす会「合同研修会」開催

毎年開催している合同研修会ですが、平成29（2017）年9月8日に「江戸五色不動巡り」と題して、永久寺（目黄不動）、最勝寺（目黄不動）、教学院（目青不動）、五百羅漢寺、瀧泉寺（目黒不動）、南谷寺（目赤不動）、金乗院（目白不動）を参拝しました。

38名の参加者（スタッフ含む）は、朝8時に上野駅に集合し、永久寺、最勝寺、教学院へと足を運びました。最勝寺（目黄不動）では、本堂に安置されている不動明王の目力と立ち姿の迫力に息を呑み、本堂の前でご住職と共に記念撮影をさせていただきました。教学院（目青不動）を参拝後、五百羅漢寺へ移動。本堂に祀られている釈迦如来の前で、執事の無垢品師から法話をいただいた後に、阿弥陀堂へと移り、木魚を使用したお念佛を体験しました。参加者からは「木魚を叩きながらお念佛を唱えることが意外にも難しかった」などの感想があり、貴重な体験となったようです。

昼食は、五百羅漢寺内の「らかん亭」にて精進料理をいただきました。精進料理ならではの食材を活かした味付けに参加者一同大いに感動。昼食後には瀧泉寺（目黒不動）へと移動し、副住職の滝口師より境内をご案内いただき、本堂裏に安置されている大日如来の神秘的な雰囲気に見守られながら、お参りさせていただきました。

その後、南谷寺（目赤不動）、金乗院（目白不動）と駆け足でお参りをさせていただき、無事に「五色不動（6カ寺）」全てを巡拝することができました。

秋季合同研修会（五百羅漢寺にて）

Activity 07

仏教ヨガ講座：スピンオフ企画「仏教×ヨガをはじめよう」開催

仏教伝道協会では、「BDK仏教ヨガ講座」を毎月第1水曜日に開催していますが、平成29（2017）年度は定例講座に加え、より仏教的側面に焦点を当てた「Buddhist Approaching Yoga: 仏教×ヨガをはじめよう」を平成29（2017）年8月27日（日）に実施しました。

念仏体験【上】　椅子坐禅【下】

講師には、ヨガインストラクターとしても活躍する僧侶のガッソ有香師（浄土宗、定例講座を担当）と、同じく僧侶の西川公祥師（曹洞宗）をお招きしました。

ガッソ師には「念仏」と「ヨガ」の指導をいただき、西川師には「ストレッチ」、「呼吸法」、「イス坐禅」を指導していただきました。また、参加者約40名には、それぞれの宗派の行（念仏・坐禅など）の体験を通し、仏教とヨガの共通点を学んでいただきました。そして体

験終了後には、講師の方がたを囲んで精進料理のお弁当をいただき、定例講座とは異なった雰囲気で特別な時間を過ごしていただきました。参加者からは、「木魚を叩かせていただき、滅多に体験できないことが気軽にできて良かった」、「集中することの大切さを学んだ」など、満足度の高い感想をいただきました。ご好評につき、今後も当協会ならではのヨガ講座を企画・開催していく予定です。

講師を囲んで精進料理の昼食（食前に五観の偈を称える参加者）

Activity 08

都心で仏教修行を体験！

「東京修行体験」開催 於 仏教伝道センター

これまで当協会では座学での講座を多く開催してきましたが、一般の方も耳にしたことはあるけれど、〝漠然としたイメージ〟でしかない仏教の「修行」にスポットを当てた体験型の講座を開催しました。

お釈迦様が悟りを開かれた日である12月8日の成道会に、細川晋輔師（龍雲寺住職）による坐禅指導と、吉田龍雄師（蟠龍寺副住職）による念仏行指導という、ふたつの仏教修行を体験し、多くの方がたの参加をいただきました。

参加者からは、仏教の教えを、実際に体を動かして学ぶ機会を得て、「自分の雑念に気づくことが出来た」「木魚を叩くのが初めての体験だったので、とても為になった」「念仏の声が部屋中に響いているのを聴き、心地よく不思議な感覚になれた」また「短い時間でふたつも修行を体験できて良かった！　濃い二時間だった」といった感想が聞かれました。

坐禅と念仏、ふたつの異なる宗派の修行を一つの催しの中で同時に体験することはなかなか難しいのが現実ですが、今回は、超宗派の活動を行っている当協会ならではの企画として、多くの方がたから好評をいただきました。

念仏指導をする吉田師

坐禅指導をする細川師

09 Activity

仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」開催

於 仏教伝道センター

ご好評につき、仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」を今年も開催！

平成28（2016）年度より、月に一度、一般の方を対象に、日本の伝統仏教宗派をひとつずつ取り上げ、各宗派の基本的教義や宗祖の歴史などを解説する仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」を開講しています。平成29（2017）年度も定員をはるかに超える多くの参加申込をいただきました。

前年度同様、各宗派の教義、宗派の歴史、宗祖の生涯、代表的な修行、衣体の紹介や作法などを取り扱う基本講義と、各講師の信仰・体験に基づく法話から構成され、仏教を「知識」と「実践」の両面から学ぶことのできる講座となっています。本講座の最大の特徴でもあり、一般的な大学等での講義では聴くことの出来ない講師陣による法話は、参加者の皆さまからも大変ご好評をいただいています。

また、二年目の開講ということもあり、「日本仏教の学びの入り口」という基本を残しつつ、各講師自らの実体験や専門知識に特化した内容も加え、昨年度も受講された方でも新たな発見ができる内容を目指しました。

4月講師　天台宗・最澄（阿純章師）

5月講師　真言宗・空海（松島龍戒師）

6月講師　浄土宗・法然（井上広法師）

7月講師　浄土真宗・親鸞（前田壽雄師）

公益財団法人 仏教伝道協会

平成29(2017)年度の主な活動

た。

尚、これまで当仏教伝道センター（港区芝）を会場としていましたが、平成30（2018）年度より渋谷にて開講し、これまでなかなかお越しいただくことが難しかった地域にお住まいの方がたにも参加していただいています。

※今後の開催内容の詳細については、仏教伝道協会公式サイトにてご確認ください。http://www.bdk.or.jp

〈参加者の声〉

4月　天台宗「分かり易いお話しと見やすい配布資料で、是非自宅で復習したいです。」

5月　真言宗「宗祖 空海さんの意外な一面を知ることができました。」

6月　浄土宗「浄土宗の教えを更に身近に感じることができました。」

7月　浄土真宗「浄土真宗の教えを三つのポイントに絞って説明してくださり、とても分かりやすかったです。」

9月　日蓮宗「（講師の）具体的な活動に絡めたお話が聞けて感動しました。」

10月　臨済宗「もっと厳格な宗派なのかと思っていましたが、形や決まりにこだわらない自由度の高い宗派なのだと知りました。」

11月　曹洞宗「（講師がステージを降りて話をされていたことに触れて）近くまで先生が来て丁寧に説明してくださり、熱意を感じました。」

9月講師　臨済宗・栄西（細川晋輔師）

10月講師　日蓮宗・日蓮（酒井菜法師）

11月講師　曹洞宗・道元（千葉公慈師）

平成29（2017）年度開催実績

開催月	テーマ	講　師
4月	天台宗・最澄	阿　純章 師（天台宗 圓融寺 住職）
5月	真言宗・空海	松島 龍戒 師（高野山真言宗 功徳院 住職）
6月	浄土宗・法然	井上 広法 師（浄土宗 光琳寺 副住職）
7月	浄土真宗・親鸞	前田 壽雄 師（武蔵野大学 准教授）
9月	臨済宗・栄西	細川 晋輔 師（臨済宗妙心寺派 龍雲寺 住職）
10月	日蓮宗・日蓮	酒井 菜法 師（日蓮宗 高応寺 住職）
11月	曹洞宗・道元	千葉 公慈 師（宝林寺 住職 / 駒沢女子大学 主任教授）

平成29（2017）年度

合格者インタビュー

「仏教を初歩英語で学ぶ会」開催報告

「仏教を初歩英語で学ぶ会」は、平成23（2011）年に開始され、これまで多くの受講者の皆さまに英語を通して仏教思想を学ぶカリキュラムを実施してきました。

平成28（2016）年から、受講者の皆さまの向学心の更なる促進と増加する外国人観光客に英語で仏教を説明できる人材の育成を目的として、「仏教英語ガイド」認定資格プログラムを導入しました。平成29（2017）年度からは、3級コースに加え、新たに2級コース（3級コースを修了しテストの合格者のみが受講可能）を新設しました。

本年度の3級コースは、定員一杯の80名が受講、2級コースは、昨年度のテスト合格者38名が受講しました。2級テスト合格者には、都内仏教寺院に於ける英語ガイドボランティアおよび平成30（2018）年11月に東京で開催される世界仏教徒会議の英語ボランティア適性者として推薦状を発行しました。

今後の合格者の皆さまの活躍にも期待を込めつつ、今回、2級コースに見事合格・卒業された受講者のおひとりである、吉村柚美さん（東京都世田谷区在住・通訳者）に本講座を受講した感想を伺いました。

まずは、「仏教英語ガイドプログラム」を受講しようと思ったきっかけを教えていただけますか。

はい。これは、まったく偶然のことでした。実家の父が亡くなってから歳月が流れ、母も高齢者住居でお世話になることになり、実家を継ぐ人もいないため、家を売却しなくてはなりませんでした。なかなかお墓参りにも行けないため、お墓も都内に移すことを検討していたところ、築地本願寺和田掘廟所という案が持ち上がり、実際に見学に行ってみることにしました。すると、そちらの事務所に「仏教英語ガイドプログラム」のパンフレットがあって、ふと目に留まりました。何だろう？　と思って手に取り中を見た瞬間、この講座を受講したい！と強く思い、帰宅後、急いで仏教伝道協会に電話をして申し込みをすることが出来たのです。偶然にも、パンフレットを拝見したのが、プログラムが間もなく始まるという最高のタイミングでしたので、運良く初回から受講することができ、この貴重な出会いが、私が仏教を学んでいく入口になってくれました。

なるほど。受講のきっかけは、偶然の出会いだったと言うことですが、では、受講の目的は何だったのでしょうか。

目的は、二つありました。一つは、純粋に〝仏教について学ぶ〟ということです。仕事で英語の通訳をしておりますので、英語で学べる点にも、とても魅力を感じました。

二つ目は、〝資格として取得する〟という点です。今までもお客様を寺院などにお連れすることもありましたが、今から考えてみると、その時の説明は全く表面的で不十分だったと思います。当時すでに、「全国通訳案内士」の資格は持っていましたが、それに加えて、今まで日本になかった「仏教英語ガイド」という資格が取得できたら、とても素晴らしいことだと思いました。

明確な目的を持って本講座を受講されたわけですね。では、今回は、昨年の3級に引き続き2級講座を受講されましたが、目的やモチベーションなど、何か変化はありましたか。

吉村 柚美さん

これまで仏教を勉強したいと心のどこかで思いながらも学ぶ機会に恵まれず、念願かなって受講させていただいた本講座の内容が素晴らしかったため、モチベーションは高いまま二年間が過ぎましたが、3級から2級に進むに従って、興味が深まり、またその対象も広くなったと感じています。

3級講座では、インドでの仏教の成立から、世界における全体像を一から教えていただき、2級講座では、日本の仏教の各宗派の成り立ちなどについて勉強しました。3級に取り組んでいる時から、寺院の多い京都や滋賀を訪れたりしましたが、2級を受講してからは、美術館や仏教関連の講座、近隣の寺院などにも、よく出かけるようになりました。また、テレビや本なども仏教的な要素が含まれているものを自然と選ぶことが多くなりましたし、自分でも驚いているのですが、良い循環と言いますか、学んだことがすぐに次の機会に出てきたりして、知っている要素があるとまた楽しく、また、それらが次々につながって、更に興味が湧いてくる、そういう感じがしています。これまで全く素通りしてきた事柄に今では気づけるようになりました。

なるほど！どんどん世界が広がっていて素晴らしいですね。徐々に興味を深めつつ1年を通じて受講していただきましたが、1年間という受講期間や講座の内容は、いかがでしたか。

資格認定のプログラムなので、1年継続してというのは、とても良いことだと思います。月に1度というのも、社会人でも無理なく受講することができてありがたいですね。

また、宗派にとらわれず広く仏教を学べるということや、学びに英語の要素が多くあるということも良かったと思います。日本語は、時に曖昧な表現になることがありますし、仏教関連の言い回しは、難解な語句も多く、すんなり理解できないことがありましたが、英語で読むと曖昧さが消え、理解が進むことが多いです。このプログラムでは、日英の言語で比較しながら学ぶことができ、とても論理的でわかり易く学ぶことができると思います。

そして、やはり信頼できる仏教伝道協会で、優れた先生から直接学べるという点が、この講座の最大の魅力ではないでしょうか。日米の仏教に精通されたケネス田中先生に、丁寧に指導していただくことができ、とても稀有な機会に巡り合えたと、その幸運に感謝しています！

ありがとうございます。では、この度2級に合格され、認定資格を取得し、今後どのように活用したいと考えていらっしゃいますか。

そうですね。講座を受講して、「四聖諦（仏教が説く四種の基本的な真理：苦諦、集諦、滅諦、道諦のこと）」や「八正道（仏教において涅槃に至るための八つの実践徳目：正見、正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、正定のこと）」などを学べたことは、とても貴重なことでしたので、さまざまな機会で活かせたらと考えています。仏教の基本中の基本でありながら、仏教文化の根付いた日本で普通に生活していても、まず詳しく知る機会はありません。今後は、自分が困難に陥った時に、ただただ絶望するのではなく、自分は、あるいは相手は、今こういう状態にあるのだなと、客観的に考えられるのではないかなと思っています。

仕事柄、お客様に日本のことを説明する機会があります。この資格取得のために2年間深く勉強する機会を与えていただいたので、今後は以前より深い視点でご案内することができると思います。また、仏教を心の中心に置くことで、相手の気持ちに前より少しだけ寄り添うことができれば嬉しいです。

また、おかげさまで、日本の古刹名刹などの神社仏閣、絵画、仏像、美術工芸品などに、自然と目が行くようになりましたので、現在は、国宝についての勉強もしており、ぜひ国宝検定の資格も取得したいと考えていますし、今後は仏教を自分の拠りどころとしていければと思っています。

＊　＊　＊

本講座の受講をきっかけに、ますます学びの世界が広がっている吉村さんのお話を大変楽しく聞かせていただきました。英語やお寺に興味はあってもなかなか学ぶ機会のなかった方、英語で海外からのお客さまをおもてなししたい方、仏教を違った側面から学んでみたい方など、様ざまな目的で受講されている本講座。好評につき今年度も「仏教英語ガイド」認定資格プログラムを開講しております。是非この機会に新たな学びをスタートしたい方、詳細は当協会公式サイトにてご確認ください。

http://www.bdk.or.jp

平成29(2017)年度
BDKシンポジウム

Symposium

平成29（2017）年度は、メディアや各界の第一線で活躍されている方がたを講師としてお招きし、第13回、第14回となるシンポジウムを下記の通り企画・開催しました。

第14回「宗教の未来を話そう」

第13回「社会と向き合う仏教者」

各講演概要・講師略歴

第13回

テーマ：「社会と向き合う仏教者　～ 一日一生 ～」

開催日／平成29年７月11日㈫
時　間／18：00～20：00
講演者／玄　秀盛 氏（げん ひでもり）　公益社団法人　日本駆け込み寺　代表

現在、公益社団法人 日本駆け込み寺　代表として、さまざまな問題や苦しみを持つ人びとに真剣に寄り添い、それらの解決に取り組まれている玄氏ですが、なぜこのような活動を始められたのか、ご自身の生まれ育ってきた環境や仏教との巡り会いについてお話いただきました。そして、現在の日本の仏教に問われていることを来場者の方がたと考える場となりました。

第14回

テーマ：「宗教の未来を話そう」

開催日／平成30年２月27日㈫
時　間／18：00～20：00
講演者／晴佐久　昌英 氏（カトリック浅草教会・上野教会　主任司祭）
　　松山　大耕 氏　（臨済宗妙心寺派　退蔵院　副住職）
　　矢野　幸士 氏　（浅草神社　禰宜）
　　ナセル　永野 氏（日本人ムスリム）

旧来の価値観が大きく変化している今、国も企業も個人も自分自身で考え、新たな価値を切り拓いていかなければならない時代を迎えています。そんな現代社会において「宗教は、どうやってものを考えたらいいか、のヒントになるか？」「不安な気持ちを抱え、何かを信じたいという心に対して、宗教が果たす役割とは？」「宗教の未来とは？」などの質問への答えをそれぞれに投げかけ、お話いただきました。

毎回、定員（120名）を超える申し込みがあり、沢山の声をいただきました。次回以降も、仏教をより身近に感じていただけるようなシンポジウムの開催を目指してまいります。今後の開催については当協会公式サイトにてご確認ください。http://www.bdk.or.jp

公益財団法人 仏教伝道協会
第二代会長 沼田智秀 一周忌法要 厳修

平成28（2016）昨年2月に亡くなった沼田智秀前会長の一周忌法要を、平成30（2017）年2月7日、築地本願寺（東京都中央区）にて厳修しました。世界的精密測定機器メーカー株式会社ミツトヨ（以下ミツトヨ）：仏教伝道協会を設立した父親の沼田恵範師が創業）との合同法要を執り行い、各界より約120名の皆さまにご参集いただきました。

一周忌法要は、山本政秀師（浄土真宗本願寺派東京教区教務所長）を導師に、本多隆朗師（浄土真宗本願寺派執行長）、沼田恵明氏（施主・ミツトヨ代表取締役社長）、中川徹氏（同会長）、木村清孝師（仏教伝道協会会長）、桂紹隆師（同理事長）、田中昭徳師（聖観音宗浅草寺貫首）、村上太胤師（法相宗大本山薬師寺管主）のご焼香に続き、柔らかな笑みを浮かべる沼田前会長の遺影を前に、ご参列の皆さまより、心のこもったご焼香を頂戴しました。

逸見道郎師（浄土真宗本願寺派浄土寺住職）の法話の後、施主の恵明氏は、父である沼田前会長の生涯を振り返りながら、「私も受け継ぐべき仕事が山ほどありますが、今はミツトヨの社長としての責務を全うし、社業発展に尽くすことが創業の精神である仏教伝道の活動の支援を通して人びとの幸福に寄与することに繋がっていくものと信じています」と決意を述べられました。

お斎は、仏教伝道協会 木村清孝会長の挨拶に始まり、続いてミツトヨ 中川徹会長による献杯、二胡奏者 姜暁艶氏による二胡の演奏の後、仏教伝道協会 桂紹隆理事長の挨拶にて締めくくられました。当日は、沼田前会長をご縁に多くの方がたにお参りをいただき、また思い想いに沼田前会長との時間を思い起こし懐かしむ一日となりました。

お斎の様子

沼田智秀前会長の遺影を前に
挨拶をする木村清孝会長

施主 沼田恵明氏 挨拶

ちょっとひと休み

現代人のための「月1精進料理生活」のすすめ

木原祐健師（浄土真宗本願寺派梅上山光明寺衆徒）に教わる

家庭で簡単「精進スイーツ」レシピ

レシピ考案●光明寺　木原祐健
編集・撮影●公益財団法人仏教伝道協会　江口郁

家庭で簡単！おもてなしにも最適な「豆乳かん」四季のソース添え

お寺などに於いて伝統的な作法でいただく本格的な精進料理から、カフェやレストランに於いて動物性のものを使用しない料理をいただくことなど、一口に〝精進〟とはいえ、近年、様ざまな概念で提供がなされている「精進料理」ですが、日々を忙しく過ごされている方がたにとっては、常に栄養のバランスを考え、手間暇をかけて調理したものをゆっくりといただくことは難しいことも多いかと思います。

そこで今回は、月に1度でも、食材ひとつひとつを大切に、感謝しながらいただく、そして心と体のデトックスにもおすすめのレシピを、〝神谷町オープンテラス〟にて店長を務め、訪れる人びとを手作りのお菓子で迎える木原祐健師に考案していただきました。

栄養価が高く、古来から重宝されている食材に大豆食品があげられますが、今回は、スーパーやコンビニエンスストアなどでも手軽に購入可能な「豆乳」に着目しました。

「豆乳」といえば、そのまま召し上がる方から、料理やスイーツまで、実に多様な活用がなされている食材ですが、お子さまからご高齢の方まで気軽に親しんでいただけるよう、木原師に簡単にできる「精進スイーツ」の代表として「豆乳かん」のレシピを考案いただきました。また今

回は、四季折々のおもてなしにも最適な四種のソースも併せてご紹介いただきます。

材料に一切動物性の食品を使用していない「精進スイーツ」で、心も体も満たされる、より多くの方がたに、飲むだけではない「豆乳」の魅力をご紹介する機会を提供できれば幸いです。

神谷町オープンテラス

今回、「精進スイーツ」レシピを考案いただいた木原師は、浄土真宗本願寺派光明寺内（東京都港区）にある「お寺カフェ」こと〝神谷町オープンテラス〟の店長を務め、茶菓のおもてなし（原則予約制ですが、木原師お手製のお菓子がいただけることもあります）や傾聴をされるなど、人の心に寄り添った活動をされています。

光明寺では、このテラスを光明寺の檀家の皆さまのみならず広く一般の方向けに開放しており、お昼時ともなれば近隣にお住まいの方やお勤めの方がお昼ご飯を片手に訪れるなど、気軽に親しまれる存在で、テラスからは、東京タワーに加え花や緑を愛でることも出来、皆さまの憩いの場にもなっています。オープンテラスの活動以外にも、〝お寺のヨガ教室「テラヨガ」〟や〝お寺の音楽会「誰そ彼」〟など様ざまな催しが開催されています。

その他光明寺での催し等活動の詳細は、直接光明寺までお問い合わせください。

◆浄土真宗本願寺派 梅上山 光明寺
〒105-0001　東京都港区虎ノ門3-25-1
http://www.komyo.net/web/kamiyacho.html
神谷町オープンテラスブログ
（ご予約はこちらから）：http://www.komyo.net/kot/

レシピ考案
木原祐健（きはら・ゆうけん）

1978年神奈川県生まれ。浄土真宗本願寺派僧侶。神谷町光明寺所属。寺院内オープンスペース「お寺カフェ」神谷町オープンテラスに設立時より参加。現場の長「店長」として主に来訪者の接遇を担当。お寺や福祉施設等での傾聴活動も積極的に行う。共著に『小さな心から抜け出す　1日1分説法』（永岡書店）『おてらの癒やし甘味プログラム』（フェリシモ）

家庭で簡単！おもてなしにも最適な

「豆乳かん」四季のソース添え

レシピ考案●木原祐健

豆乳かん

材料（4人前）

- ●豆乳 300ml
- ●水 50ml
- ●粉寒天 4g
- ●砂糖（上白糖）40g

作り方

1. 鍋に水と寒天を入れ、火に掛けて混ぜる。ぐつぐつしてきたら弱火にしてそのまま2分ほど混ぜて寒天を溶かす。
2. 砂糖を入れ、混ぜながらよく溶かす。
3. 豆乳を少しずつ混ぜて加える。

ここがポイント！

一度に入れすぎると豆乳が凝固するので注意しましょう。

4. 金型や耐熱容器などに流し入れ、あら熱を取りながら、常温で1時間固める（その後、冷蔵庫等で冷やしても美味しく召し上がれます）。

四季のソース

春

＊桜の花の塩漬け ４輪（製菓材料コーナーなどで手に入ります）
＊水 60cc　＊砂糖 60g

1. 桜の花を塩抜きする（塩を振り落とし、水に20分浸けて塩分を抜く）。
2. ❶の水を捨てる。
3. 水を沸騰させ、砂糖を入れて溶かし、2／3くらいになるまで煮詰める。
4. あら熱がとれたら、桜の花を入れ、軽く混ぜる。

夏

＊抹茶 3g　＊お湯 15cc
＊水 60cc　＊砂糖 60g

1. 抹茶に80度程度のお湯を入れ、泡立て器等でよく溶かす。
2. 水を沸騰させ、砂糖を入れて溶かし、2/3くらいになるまで煮詰める。
3. 火を止めて❷を入れ、よく混ぜる。

秋

[A] ＊りんご 中サイズ1／4個　＊はちみつ 10g　＊レモン 5cc
[B] ＊りんご 中サイズ1／2個　＊はちみつ 15g　＊砂糖 15g　＊レモン 15cc

1. Aのりんごを角切り（3mm～5mm角くらい）にし、Aのはちみつ、レモンとあえる。
2. Bのりんごをすり下ろし、Bのはちみつ、砂糖と混ぜて火に掛ける。
3. ❷のあら熱がとれたらレモンを入れ、よく混ぜる。

冬

＊ゆず 中サイズ１個（200g程度）
＊はちみつ 40g　＊水 80cc

1. ゆずを半分に切り、果汁をしぼる。種と袋を除き、皮のわたをこそげむく。
2. ゆずの皮を細切りにし、さっとゆでる。ゆでた湯は捨てる。
3. ゆずの皮、はちみつ、水を入れて火にかけ、弱火でこげないように半量程度まで煮詰める。
4. あら熱がとれたら❸にゆずの果汁を入れ、よく混ぜる。

海外協力機関のご紹介

お問い合わせ一覧

●各国での『仏教聖典』頒布やその他活動の詳細に関するお問い合わせは、お近くの仏教伝道協会までお願いします。

北米地区

米国仏教伝道協会
BDK America

1675 School Street,
Moraga, CA 94556 U.S.A.
Tel: +1(925)388-0067 Fax: +1(925)388-0331
E-mail: orders@bdkamerica.org（対応言語：日本語・英語）
http://www.bdkamerica.org

ハワイ仏教伝道協会
BDK Hawaii

1757 Algaroba Street,
Honolulu, HI 96826, U.S.A.
Tel: +1(808)942-1511 Fax: +1(808)942-2622
E-mail: bdkhawaii@gmail.com（対応言語：英語）
http://www.bdkhawaii.com

カナダ仏教伝道協会
BDK Canada

c/o Mitutoyo Canada Inc.
2121 Meadowvale Blvd.
Mississauga, ON, CANADA L5N 5N1
Tel: +1(905)821-1261 Fax: +1(905)821-4968
E-mail: honjo@bdkcanada.com（対応言語：日本語・英語）
http://www.bdkcanada.com

中南米地区

メキシコ仏教伝道協会／メキシコ恵光寺
BDK Mexico

Prolg. Eugenia No. 17, Col. Nápoles, C.P.03810
México D.F., MEXICO
Tel/Fax: +52(55)5669-1088
E-mail: bdkmexico@prodigy.net.mx（対応言語：日本語・スペイン語）

南米地区

南米仏教伝道協会
BDK South America

a/c Mitutoyo Sul Americana Ltda.
Rodovia Índio Tibiriçá 1555, BAIRRO RAFFO, CEP 08620-000
SUZANO-SP, BRASIL
Tel: +55(11)5643-0006 Fax: +55(11)5641-3745
E-mail: bdk@mitutoyo.com.br（対応言語：日本語・ポルトガル語）

欧州地区

ヨーロッパ仏教伝道協会／ドイツ恵光日本文化センター
BDK Europe (EKŌ-Haus der Japanischen Kultur e.V.)

Brüggener Weg 6,
40547 Düsseldorf, F.R. GERMANY
Tel: +49(211)577918-0 Fax: +49(211)577918-219
E-mail: pool@eko-haus.de（対応言語：日本語・ドイツ語）
http://www.eko-haus.de

英国仏教伝道協会
BDK U.K.

c/o Mitutoyo(UK)Ltd. Joule Road, West Point
Business Park, Andover, Hants SP10 3UX U.K.
Tel: +44 1264-353123 Fax: +44 1264-354883
E-mail: bdk@mitutoyo.co.uk（対応言語：日本語・英語）

ポーランド仏教伝道協会
BDK Poland

c/o Mitutoyo Polska Sp.z o.o.
UL. Graniczna 8A 54-610 Wroclaw, POLAND
Tel: +48(71)354 83 50 Fax: +48(71)354 83 55
（対応言語：ポーランド語・英語）

日本以外のアジア地区

アジア仏教伝道協会
BDK Asia

c/o Mitutoyo Asia Pacific Pte. Ltd.
24 Kallang Avenue, Mitutoyo Building,
Singapore, 339415, SINGAPORE
Tel: +65 6294-2211 Fax: +65 6299-6666
E-mail: bdk@mitutoyo.com.sg（対応言語：日本語・英語・中国語）

台湾仏教伝道協会
BDK Taiwan

4F., No.71, Zhouzi St., Neihu Dist.,
Taipei City 114, TAIWAN (R.O.C)
Tel: +886(2)5573-5913 Fax: +886(2)8752-3267
E-mail: sharon@mitutoyo.com.tw（対応言語：日本語・英語・中国語）

「BDKグローバル会議」開催報告

日本国外には、現在9カ国10カ所にそれぞれ独立した〝仏教伝道協会（通称BDK）〟があり、日本の仏教伝道協会と相互に連携しながら、特に『仏教聖典』の頒布活動を通じて仏教精神、仏教文化を伝えています。

平成29（2017）年10月31日、11月1日の2日間、各国仏教伝道協会より代表者が参集し、第4回目となるBDKグローバル会議を開催しました。

「BDKグローバル会議」出席者

今回のグローバル会議では、これまで参加していた米国、ハワイ、カナダ、メキシコ、ヨーロッパ（ドイツ）、英国仏教伝道協会に加え、南米（ブラジル）、アジア（シンガポール）、台湾仏教伝道協会が初参加となり、過去最多となる32名が出席しました。

会議初日は、まず日本の活動発表を行い、続いて各国での活動報告と今後の展望が発表されました。海外の協力機関では、『仏教聖典』の頒布を中心に、各国の伝統、文化に即した活動が展開されており、それぞれの機関を取り巻く現地の環境ならではの仏教伝道活動に新鮮な感覚と刺激を得ることができました。

特別報告のあった、タイでは仏教が今日の社会でも身近なものとして人びとと密接な関係を持ち、商業施設にも仏教に関係するモニュメントが設置されていることなどが説明され、『仏教聖典』の頒布活動も取り組みやすいという報告を受けました。

また、欧米圏など東洋の思想・文化に縁が希薄であった地域でも、仏教徒人口が増加しているという報告もあり、世界全体の仏教徒人口の増加にも繋がっていることが分かりました。

その他、日本では当協会設立以来、ホテル・旅館等の宿泊施設（主に客室）への『仏教聖典』寄贈・常備活動を推進していますが、国内においては、ホテル客室設備の簡素化や経営方針の転換などを理由に新規の寄贈および補充が伸び悩んでいます。この現状は、国、地域によって程度の差はありますが、海外においても同様の問題を抱えていることが、今回の会議を通して浮き彫りになりました。

そして二日目は、初日の発表を受けて、「世界の仏教伝道協会の共通認識」、「現代社会に則した『仏教聖典』頒布の在り方」、「ウェブサイトの活用」、「各協力機関間の協力体制」等について議論し、活発な意見交換がなされました。そして、これらの諸課題に対して「国際的に使用可能な英語書籍の刊行」、「仏教伝道協会公式ウェブサイトの充実化と共有」、「各協力機関の現況リサーチの徹底」をするということで基本方針が決まりました。

仏教伝道協会では、今後も世界に広がる協力機関と共に、伝統と革新を組み合わせた形で、グローバルな社会に対応出来る活動を展開していきます。

「BDKグローバル会議」開催の様子

懇親会で挨拶をするヨーロッパ仏教伝道協会　松丸師

写真展開催風景

米国仏教伝道協会 BDKアメリカ
（アメリカ・カリフォルニア州）

「英訳大蔵経プロジェクト」報告

米国仏教伝道協会では、日本の英訳大蔵経編集委員会との協力のもと、漢文から英語への翻訳を継続的に行っています。平成29（2017）年は3冊を発刊し、累計では54冊になり、英訳された大蔵経は米国でも高い評価を受けています。

また、英訳大蔵経の発刊をプリント・オン・デマンド（POD）方式に変え、アマゾン、ハワイプレス及び米国仏教伝道協会の公式サイトから簡単に注文できるようになりました。そして、2017年2月より大蔵経PDFファイルを仏教伝道協会公式サイト（http://www.bdk.or.jp）に掲載し、無料でダウンロード出来るようにしました。2017年末時点で約5万件のダウンロードがあり、多くの方がたに興味を持っていただいていることが分かりました。

「ブッダのことばとインドの風景」写真展 開催

日本の仏教伝道協会主催で開催した「ブッダのことばとインドの風景」写真展の内容を英訳し、米国仏教伝道協会主催で、浄土真宗センター（カリフォルニア州）、ニューヨーク寺院（ニューヨーク州）、ワシントン恵光寺（バージニア州）、西本願寺ロサンゼルス別院（カリフォルニア州）にて同様の展示を行い、好評を得ました。今後もアメリカ国内において各寺院からの要望があれば、継続的に開催を検討していく予定です。

「沼田智秀優秀書籍賞」受賞者
Jaqueline I. Stone 氏（左）タナベ理事長（右）

米国仏教伝道協会

ワシントン恵光寺

2017年度「沼田智秀仏教書籍優秀賞」決定

平成21（2009）年に仏教伝道協会により設立、その後カリフォルニア大学バークレー校仏教学研究センター（カリフォルニア州）により運営され、その年に英文で刊行された仏教関連書籍の中から特に優秀な書籍に贈られる「沼田智秀仏教書籍優秀賞」（現地では〝Toshi Award（智秀賞）〟の愛称で知られる）は、平成29（2017）年の受賞書籍として、プリンストン大学（ニュージャージー州）教授Jaqueline I. Stone氏の『Buddhism Deathbed Practices in Early Medieval Japan』（ハワイ大学出版）を選出しました。表彰式および記念シンポジウムは、平成29（2017）年12月1日、カリフォルニア大学バークレー校にて開催され、約100名という多数の出席をいただきました。

「ワシントン恵光寺」ご紹介

ワシントン恵光寺は、昭和56（1981）年、仏教伝道協会の発願者である沼田恵範により建立され、米国仏教伝道協会が一部支援し、米国仏教団の所属寺院として活動しています。ご門徒の方がたは、多種多様な民族的背景を持ち、その数は毎年増加しています。恵光寺主催の主な行事は、仏教講座、瞑想のクラス等、多岐にわたり、恒例の盆踊りには、地域住民の皆さまをはじめとする約1,000名の参加者がありました。住職の林師はハワイ生まれの日本育ちで、今回初めて住職という重要な役職に就くことになりましたが、素晴らしいリーダーシップのもと、恵光寺の活動も大変良い方向に向かっています。

その他アメリカでの活動については、米国仏教伝道協会公式サイトをご確認ください。http://www.bdkamerica.org（英語のみ）

ハワイ仏教伝道協会 BDKハワイ

（アメリカ・ハワイ州）

特別ワークショップ開催～職場での良好な人間関係を保つには

ハワイ仏教伝道協会が支援する〝ブジタニ異宗教間プログラム〟の一環で、職場での良好な人間関係を築くことの重要性について学ぶワークショップを開催しました。基調講演は、オバマ前大統領の妹で、ハワイ大学のDr. Maya Soetoro-Ngが行いました。参加者は、仏教、キリスト教、ヒンドゥー教など様ざまな信仰を持つ約70名でした。

「ハワイ 本と音楽の祭典」

毎年5月にホノルル市役所の敷地内で行われる「ハワイ本と音楽の祭典」に参加しました。当日はボランテ

Dr. Maya Soetoro-Ng（ハワイ大学）による基調講演

ハワイ仏教伝道協会

ィアの皆さまの力もお借りして、『仏教聖典』の領布を行いました。2日間のイベントで参加者は約2万人。ハワイ仏教伝道協会では、開催期間中に行われたHaemin Sunim師の基調講演を支援させていただきました。Sunim師は、韓国の禅僧で、約300万部の売り上げを誇る『The Things You Can See Only When You Slow Down』の著者でもあります。

内陣前にて（左からBDKハワイ・タナベ理事長、BDK古澤師、BDKアメリカ山下氏）

「PBA新校舎落慶法要」報告

PBA―パシフィック仏教アカデミーは、アメリカで唯一の仏教系高校で、平成29（2017）年9月に新校舎の落慶法要を行いました。

新校舎はハワイ本派本願寺の敷地内に建設され、落慶法要には、大谷光淳本願寺門主が臨席され、同校校長のMr. Pieper Toyamaより、公益財団法人仏教伝道協会より寄贈された内陣についての説明がありました。法要には、仏教伝道協会より古澤勝浩師、アメリカ仏教伝道協会より山下美喜男氏とハワイ仏教伝道協会より理事長であるDr. George Tanabeが出席しました。

その他ハワイでの活動については、ハワイ仏教伝道協会公式サイトをご確認ください。
http://bdkhawaii.com/BDK_Hawaii.html（英語のみ）

落慶法要にて御言葉を述べる大谷光淳本願寺門主

メキシコ仏教伝道協会・メキシコ恵光寺 BDKメキシコ

（メキシコ）

メキシコ恵光寺主催「日本寺院巡りツアー」開催

この度、仏教に関心のあるメキシコ人の皆さまのために、メキシコ仏教伝道協会・メキシコ恵光寺の主催で、『日本お寺巡りツアー』と題した研修旅行を企画、今回は12名の有志が集いました。平成29（2017）年11月6日から20日間の、紅葉が最も美しい季節の開催となりました。日本での滞在先は、メキシコ恵光寺住職（戸髙淨信）が仏教伝道協会（以下BDK）と同じ目的を志とする団体ということで、名誉会員となっている「人間禅道場」（坐禅による人間の形成が目的）が、日本国内7箇所に所有する道場（市川／日暮里／熱海／京都／岡山／広島／北九州）にて受け入れてくださることになりました。また、引率についても同住職の友人である曹洞宗僧侶の荒木泰雲師にお願いすることが叶い、今回の日本訪問が実現しました。

初日は、成田空港到着後、空港からほど近い成田山新勝寺（千葉県成田市）を訪問の後、人間禅本部道場

メキシコ仏教伝道協会

SOUTH AMERICA

恵光幼稚園にて（栃木県宇都宮市）

厳島神社にて（広島県廿日市市）

仏教伝道協会にて（東京都港区）

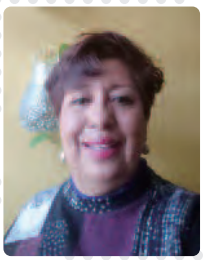
つくば恵光寺にて（茨城県つくば市）

（千葉県市川市）に一泊し、翌日戸高住職の引率で、公益財団法人 仏教伝道協会（東京都港区）を訪問しました。生田忠士理事、青木晴美理事、同協会職員の方がたのご案内のもと、BDKの活動紹介を受け、「仏教伝道協会記念館」を見学、メキシコ恵光寺より持参した記念品の贈呈を行いました。BDK主催の昼食会の後、日暮里の人間禅道場に移動し、翌日は、宇都宮恵光寺（栃木県宇都宮市）を訪問しました。全員で読経の後、住職の宗崎秀一師に本堂と境内をご案内いただき、恵光寺に隣接する恵光幼稚園でも園児の皆さまの歓待を受け、戸髙住職よりメキシコ恵光寺の活動紹介と記念品の贈呈を行ないました。

その後、引き続き宗崎住職の引率のもと、つくば恵光寺（茨城県つくば市）を訪問し、昼食を交えて歓談の後、筑波宇宙センターを見学しました。夜は、紀尾井ホール（東京都千代田区）にて開催されたBDK主催の「第18回仏教音楽祭」にご招待いただき、参加者一同、和太鼓とオーケストラの協奏をはじめとする全ての演目に感動しきりでした。

その後も各道場での規律正しい寝食を交えた体験や各地での伝統的な日本文化の体験など、充実した滞在期間を過ごし、無事メキシコへ帰国。この度は、行く先々で日本人の真心に触れ、そして日本文化・仏教文化を肌で感じるという素晴らしい機会に恵まれた訪問となりました。

最後に、今回のツアー参加者の声が届いていますので、一部ご紹介させていただきます。



●参加者：スサナさん（54歳）
Mrs. SUSANA FLORES ROJAS

私は教育関係の仕事をしており、日本の、特に幼稚園のあり方に大変興味があります。その意味で、宇都宮の恵光幼稚園を訪れた時には、園児たちがのびのびと走り回ったり、先生と一緒に遊んだり出来る広大な運動場があることに大変驚きました。人間禅道場では、本部道場に小さな幼稚園がありました。ここでは園児が剣道を習っていることに驚きました。メキシコでは全く考えも及ばない精神教育を、武道を通して出来る環境が大変うらやましく思いました。

●参加者：ナタリアさん（29歳）
Ms. NATALIA BARREDEZ RIOS

私は子供の頃から日本に憧れて、

日本語を勉強していますが、今回ようやく日本に来られて夢が叶いました。最初に成田に降り立った時の気持ちは一生忘れる事ができません。仏教伝道協会を訪れた時、近代的な部屋でも伝統的な日本の美が秘められており感動しました。そして仏教伝道協会を創設された沼田惠範師のご苦労を日本で改めて伺い、大変感銘を受けました。滞在させていただいた道場もそうですが、どの神社仏閣も自然の中に上手く溶け込み、精神文化と自然が融合していることに大変驚きました。

●参加者：イバンさん（45歳）
Mr. IVAN CARREÑO

仏教伝道協会を訪問した際には、初めて見聞きする協会設立の歴史に感動しました。メキシコには、たくさんのカソリック宣教師が５００年にも亘り活躍していますが、沼田惠範師のように、たった一人で発願され、そのために事業を興し、初志を貫き通された方はいません。その凄さに、ただただ圧倒されると共にメキシコ恵光寺の門徒として、大きな誇りをあらためて感じました。

●参加者：ホルヘさん（65歳）
Mr. JORGE LEON VAZQUEZ

私は、メキシコ第４の都市Puebla市で、２，０００人ほどの学生が学ぶALVA EDISON大学を経営し学長を務めています。神を信じていますが、「聖書」だけでは、社会に出て人として生きてゆく上での精神的基盤にはならないと思い、悩み続けていました。『仏教聖典』は、世のため人のため自分自身のための生き方を教えてくれる銘書として、学生のみならず、教員たちにも、更に大学を訪問される方がたにも勧めているところです。その『仏教聖典』を生み出した仏教伝道協会の歴史に、日本で直に触れることが出来、沼田惠範師の理念を改めてお聴きし大変光栄でした。

ASIA

アジア仏教伝道協会

アジア仏教伝道協会 BDKアジア（シンガポール）

「独楽大会」開催

平成30（２０１８）年1月24日泰日工業大学（タイ バンコク）で行われた「独楽大会」を通じて、ミツトヨタイランドより『仏教聖典』を配布させていただきました。

※計16チーム参加…8チーム（泰日工業大学）8チーム（その他専門学校）

大会に参加された来賓の方、学生の方、顧客の方がたに『仏教聖典』１００部を配布し、また泰日工業大学より、ミツトヨタイランドへ記念品が贈られました。本大会を通じて、ミツトヨは高品質・高精度の精密測定機の開発・製造を支援すると同時に、地域社会へも貢献すべく協力的な姿勢で取り組んでいることを改めて認識いただく良い機会となりました。

独楽大会にて配布される『仏教聖典』

担当者変更のお知らせ

平成30（２０１８）年2月よりBDK-Asia Ltd のディレクターに山口氏が就任し、藤原氏との2名体制になりました。また、同年1月より、Rick Lim氏がBDK-Asia Ltdにおけるアジア仏教伝道協会の専任担当者として着任、Coreen Leow氏と共に新たに活動を開始しました。

アジア新担当者（左から山口氏、藤原氏、Lim 氏、Leow 氏）

ヨーロッパ仏教伝道協会

EUROPE

ヨーロッパ仏教伝道協会・「恵光」日本文化センター BDKヨーロッパ

（ドイツ）

担当者変更のお知らせ

平成29（2017）年7月よりヨーロッパ仏教伝道協会は、新たな体制で活動をスタートしました。長年「恵光」日本文化センター所長を務めた青山隆夫師が退任し、松丸壽雄師が就任、また江田智昭師の後任として攝受弘宣師が新たに着任しました。それぞれについて今後の抱負を含めコメントをいただきましたので、ご紹介させていただきます。

【青山所長について】（松丸）

青山先生に初めてお会いしたのは、一昨年の秋口の頃であったか、仏教伝道協会においてのことでした。先生の後任として恵光ハウスに赴任することが決まった直後であったかと思います。

お話を通して、記憶力の優れたお方だなとの印象を受けました。デュッセルドルフに赴任して、実際にお会いすると、その記憶力のすごさを再確認したのを思い出します。

【江田さんについて】（攝受）

4年前に修士論文の研究のため恵光ハウスに3ヶ月間滞在させていただいた時に初めて江田さんにお会いし、ヨーロッパにおける仏教事情など多くのことを学ばせていただきました。仏事はもちろんのこと、日本の伝統文化に関するイベントやドイツ在住の日本人音楽家のコンサートなどを新たに企画されたおかげで、そのご縁は続き、現在でも様々な分野の方がたに恵光センターを利用していただいております。

江田さんはまさに恵光ハウスの新たなる可能性を広げた方であると思います。

ドイツ恵光寺境内

【今後の抱負】（松丸・攝受）

多くの前任の方がたがつないでくださったご縁を大切に引き継ぎ、恵光センターがヨーロッパにおける仏教・日本文化の発信地としてさらなる貢献ができるよう尽力して参ります。

そのためにまず、どなた様も気軽にセンターに立ち寄り、法要・行事に参加できるような雰囲気作りを心がけていきたいと思います。

その他ドイツでの活動については、公式サイトよりご確認ください。

http://www.eko-haus.de/ja/

BDKヨーロッパ新担当者と共に（松丸師：一番左、青山前所長：中央左、攝受師：一番右）

円満（えんまん）

円満といえば、現在では、
円満な人物とか円満に解決というように、
角がなくて穏やかという意味に使ったり、
円満な顔というように、
福々しいという意味になっています。

仏教では、欠けめなく満たされた状態を円満と言います。
お釈迦さまは35歳で悟りを開かれてから、
80歳で入滅されるまでの45年間、
「ただひとすじに善を求めて生きてきた」と言っておられます。
お釈迦さまが善と言われたのは、
自利利他円満する行為のことです。

自利とは、自らを真に利益するもの、
利他とは、他の人を真に利益するもの、
それが同時に満たされた状態が円満です。
真の利益とは、苦を滅し楽を得ることです。
仏教で言う苦は束縛であり、楽とは自在です。
自らの「いのち」を１００パーセント生きることを自在と言います。
自分も他の人も「いのち」の１００パーセント生きられるような状態が実現して、
真の円満なのです。

（仏教伝道協会 第二代会長 沼田智秀 著『ささえあって』―百八つのおもい―より）